

エペソ人への手紙

CFNJ 聖書学院 講義メモ

講師：グドール・ジェラルド

2013年1月

エペソ 1 章	8
序文 1:1-2	8
■1:1 クリスチャンは何と呼ばれているか	8
●「キリストにある」の3つの意味 Gr(エン・クリストー)	8
■1:2 パウロのあいさつ	8
恵みとは？	8
エペソ書の中の「恵み」	9
パウロの「恵み」ということばの使い方	11
天にあるすべての霊的祝福 1:3-14	11
■1:3-14 神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。	11
● 3つの「1章3節」	11
● St. Paul's Psalm	11
1. 父なる神からの霊的祝福	12
① 選び (V4)	12
② ご自分の子にして下さる (V5)	12
2. 子なる神からの霊的祝福	13
① 贖い(V7) 血による贖い	13
● 「一つに集められる」の三つの意味	13
② 御国を受け継ぐ者となった (V11)	14
3. 聖霊なる神からの霊的祝福	15
① 証印 (V13)	15
② 保証 (V14) Gr. アラボン 現代ギリシャ語では、「婚約指輪」という意味に使われる。	15
信仰と愛、感謝と祈り 1:15-19	15
■1:15, 16 本物の愛は聞こえてくる	15
■1:17-19 パウロのとりなしの祈り	16
● パウロのとりなしの内容 V17~19	16
● では、パウロはどんな3つのことを知る事ができるように、と祈ったか。	16
1. 神の召しによって与えられる望み	16
2. 聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか	16
3. 神の全能の力の働きによって、私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どのように偉大なものであるか	17
a. 私たち信じる者に働く～力	17
b. 信じる者に働く力	17
c. 私たち信じる者に働く	18
d. この神のすぐれた力の实例 (V20)	18
すべてにまさる御名 1:20-23	18
■1:20-21 神の力は、キリストのうちにどのように具体的に現わされたか:	18
1. よみがえり	18
2. 昇天 (V20)「天上において」	18

3. 神の右の座に着座する	18
4. すべての名の上に高く置かれた	19
● イエス様の御名は	19
① 美しい	19
② 力強い	19
■1:22 「神はいっさいのものをキリストの足の下に従わせ」	19
■1:23 「教会はキリストのからだ」 新約聖書の啓示	19

エペソ 2 章 20

大いなる「しかし」 2:1-10	20
■2:1-4	20
■2:5-10	21
● 「B.C. A.C. In.C.」	21
「キリスト・イエスにあってひとつ」 2:11-22	22
■2:11, 12 キリスト以前の私たちの姿	22
■2:13-18 私たち(ユダヤ人と異邦人)をひとつにして下さったイエス様の働き	23
● 良書推薦 「新しいひとりの人-聖書の教会像を求めて-」 ルベン・ドロン著 中川健一訳 ¥1,500	24
■2:19-22 神の家族と神の御住い	24

エペソ 3 章 26

「あなたの務めは何ですか」 3:1-13	26
■3:1-13	26
● 「異邦人のために」とあるが、どのように「異邦人のために」なったのか？	26
●パウロの務め	26
みことばをそのまま祈る 3:14-21	28
■3:14-21 パウロの第2の祈り	28
● 3つのことを祈る -すべてのクリスチャンが毎日のように祈るべきこと-	28
★★★とりなしの祈りの大切さ★★★	28
1. 内なる人が強められること (V16)	28
2. キリストの愛を知る (V17-19)	29
●●●「すべての聖徒とともに」キリストの愛を知ることの祝福●●●	30
3. 満たされますように (V19)	30
★★★「どんなことでも、神にはできるのです」★★★	30

エペソ 4 章 32

「からだはひとつ」 4:1-6	32
■4:1-3 御霊の一致を保つ	32
■4:4-6 「7つの一致のきずな」	32
一致を保つために養うべき四つの美德 (V2, 3)	33

「キリストの賜物」 4:7-11	33
■4:7-11	33
●伝道者と牧師・教師の対比	35
「キリストのからだを建てあげる」 4:12-16	35
■4:12-16	35
1. 成長の方法 その1	35
2. 成長の方法 その2	35
3. 成長の目標	36
4. 成長のしるし	37
「新しい人を着る」 4:17-24	37
■4:17-24 クリスチャン生活のオリエンテーション	37
「身に着るべきもの、脱ぎ捨てるべきもの」 4:25-32	38
■4:25-32	38
● 異邦人とクリスチャンの歩みの対比 (八つの悪と徳の対比)	38
エペソ 5 章	40
「愛と光のうちに歩む」 5:1-10	40
■5:1-2 愛のうちに歩む	40
● 「神にならう者となりなさい」: 具体的にどのように「神にならう者」となるのか。	40
① 愛のうちに歩む	40
A. 兄弟への愛 Iヨハネ 3:1, 14-18	40
B. この世の人への愛	40
■5:3-14 光の子どもらしく歩む	40
② きよく歩む (V3)	40
③ ことばをきよくする (V4)	40
④ 神様のおごそかな警告を知る	41
A. 汚れた者は御国を相続できない	41
B. だます者がいる	41
C. 神の怒りが下る	41
⑤ 汚れた生活から離れる (V7)	41
■5:8-14 光の子としての歩み	41
① クリスチャンの性質は光 (V8)	41
★★★「聖書的自己像」をもつことの大切さ★★★	41
② 光はいのちの実を結ぶ (V9)	41
③ 光は主に喜ばれるものを明らかにする (V10)	41
④ 光は暗闇のわざを明るみに出す (V11)	42
● この暗い世におけるクリスチャンの光の子供らしい歩みとは:	42
⑤ 光は触れる物を明らかにし、それを光に変える (V13)	42
⑥ 光は「眠っている人」の目をさます	42

A. 未信者に対する呼びかけ	42
B. クリスマンに対する呼びかけ	42
「賢い人のように歩む」 5:15-17	42
1. よくよく注意して (V15)	43
2. 機会を生かすことによって (V16)	43
3. 主のみこころを悟ることによって (V17)	44
「御霊に満たされなさい」 5:18-21	44
■5:18-21 どのようにして「賢い人のように歩む」のか？	44
■■■ 聖霊に満たされたら、結果として期待できること■■■	44
① 歌う心 (V19)	44
② 感謝する心 (V20)	45
③ 尊ぶ心、従う心 (V21)	45
● どのようにして聖霊に満たされるのか	45
1. 渴くこと マタイ 5:6	45
2. 示される罪をすべて告白し、悔い改める Iヨハネ 1:9	45
3. 自分を主にゆだねる	45
4. 聖霊に満たしてくださいと祈る	45
5. 聖霊に満たされたことを信じる	46
「妻たちよ。夫たちよ。」 5:22-33	46
■5:22-24 妻たちへの教え	46
● 妻が夫に従うべき2つの理由	46
① 従うことは主のみこころだから (V22)	46
② 従うことは、神様が家族に定めた秩序であるから (V23)	46
A. 夫は妻のかしらである	46
B. 妻が従うべき模範 V24	46
■5:25-33 夫たちへの教え	47
● 夫の妻に対する愛はどういう愛か	47
① キリストが教会を愛したように愛する V25	47
② きよめて聖なるものとする愛 V26, 27	47
● 教会に対するイエス様の愛のわざの三つの時	47
③ 自分のからだのように愛する V28, 29	47
④ ひとつとなる愛 V31	47
エペソ 6 章	49
「子どもたちよ」 6:1-4	49
■6:1-4 親と子の関係	49
A. 子供へのすすめ (V1~3)	49
1. 主にあつて両親に従う (V1)	49
2. 両親を敬いなさい (V2)	49

3. 両親を敬う者への祝福の約束 (V3)	50
B. 両親へのすすめ (V4)	50
① 「子どもをおこらせてはいけません」 コロ 3:21 「子ども～を気落ちさせないためです。」	50
② 「主の教育と訓戒によって育てなさい」	50
「奴隷達よ。主人達よ。」 6:5-9	51
■6:5-8 「奴隷たちよ」	51
「クリスチャンと悪魔の関係」 6:10-11	52
■6:10 「戦闘準備命令」 その1	52
1. しかし、「強くなれ」でなく、「強められなさい」である事に注意！	52
2. 主にあって in Christ	52
■6:11 「戦闘準備命令」 その2	52
A. 悪魔	52
● 敵である悪魔に関する大切な理解	52
B. この悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために神のすべての武具を身に着けなければならない	53
「神のすべての武具をとりなさい」 6:12-18	53
■6:12 「私たちの格闘は血肉に対するものではない」 — 主にある兵士の真の敵 —	53
① 人間(血と肉)と戦うな	53
● 良書紹介: 「悪魔の手紙」 by C.S. ルイス	53
② 「私たちの格闘」	54
③ 私たちは、主にあってすべての悪霊より高いところに置かれている。	54
● クリスチャンの霊的立場	54
■6:13-18 —主にある兵士の任務— 「神のすべての武具を取る」	54
● 「神のすべての武具」	54
1. 真理の帯	55
● エベソに出てくる「真理」	55
2. 正義の胸当て	55
● 「正義」は私たちの日々の生活でどういう意味をもつのか	55
3. 平和の福音の備え	56
● 「足」に関するみことばの約束	56
4. 信仰の大盾	56
● 旧約聖書では、盾は神の保護の美しい象徴。	56
5. 救いのかぶと	57
6. 御霊の与える剣である神のことば	57
7. 祈り	57
「私のためにも祈ってください」 6:19、20	58
■6:19、20 救いのための祈り	58
● では、新約聖書では、伝道や人の救いに関して、どう祈るように教えているのか。	58
1. イエス様の教え	58
2. パウロの教え	58

① あかしをするチャンス(機会)のために、祈ってください	58
② あかしをする者に勇気(大胆さ)が与えられるように、祈ってください。	59
③ 福音を語るときに、適切なことばが与えられるように、祈ってください。	59
● 未信者の救いのための効果的な祈り	59
朽ちぬ愛 6:21, 22	59
■6:21, 22 「テキコ」	59
■6:23, 24 祈禱	60

エペソ人への手紙 講義メモ

講師 グドール ジェラルド

エペソ 1 章

序文 1:1-2

■1:1 クリスチャンは何と呼ばれているか

・「キリスト・イエスにある」

In Christ 新約全部で 164 回 エペソで 37 回 1 章で 14 回 エペソで最も多い

・「忠実な」主イエスに真心から信頼を置くところから来る

・「エペソの」異本にない。今の私たちのも当てはまる

・「聖徒たち」主イエス・キリストに救われた者はみなこう呼ばれる。この自己像をもつことが VIP !

●「キリストにある」の 3 つの意味 Gr(エン・クリストー)

①「キリストによって」と言うのとほぼ同じで、手段や媒体を表わす使い方

1:6「神がその愛する方によって(エン)私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。」

②「キリストの中にある者として」という神秘的な使い方

ガラテヤ 3:27 キリストの中に入る

例 水の中に入るとからだの動きも別人のようになる。陸の上ではできない水の中のできるシンクロ。

キリストの中にあって、私たちは新しい人になる。正しい、健全な自己像をもつのに必須。

③「キリストのからだという教会共同体に属する一員として」という意味

2:22「このキリストにあって、あなたがたとともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」

3:6、3:21「教会によりに(エン)またキリスト・イエスにより(エン)」

「キリストにある」のと「教会にある」のと同じ意味に使われている。

∴ 1:1の結論：私たちが聖い、忠実な人であるということは、自分の努力や修業によるのではなく、神様(天父)とイエス様がなさること。しかもそれは、①ただ神秘的に一個人としてキリストとひとつになる経験によるのではなく、②キリストの教会の一員として身を置いて、他のクリスチャンと共にキリストに仕えることによって成り立つ。

■1:2 パウロのあいさつ

・ギリシャ人の普段のあいさつ「喜べ！【Rejoice!】(カイレ)

しかしパウロは似た発音で「カリス」【豊かな恵み】(エペソで 12 回)を用いた。

・ユダヤ人の普段のあいさつ「平和！」(Heb:シャローム、Gr.:エイレーネー)

・この恵みと平和の源は父なる神と主イエス・キリスト

・恵みと平安はパウロ神学の偉大なテーマ

・無代価で、ふさわしくない者にあたえられる恵み。「あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。」2:5

・その恵みを受けた結果である平安(霊的な充足)。

天父と主イエスから来るこの恵みと平安は私たちのすべての必要を満たす。

恵みとは？

① 恵みはそれを受ける価値のないものに示される愛

罪深い、汚れた、神に反逆している罪人、ふさわしくない者に示される愛。

Heb. ヘーン「愛顧」

・優越者の劣等者に対する過分の愛顧を意味する。

・劣等者から優越者への場合に使われない→神が人間に恵み【ヘーン】を示すことはあっても逆はない。

愛顧：(広辞苑) 目にかけて引き立てる。(引き立てる=力をそえて助けること。)

(MS 辞典) (「顧」は、目をかける意) 上の (強い) 立場に在る人が特定の部下や商人・芸人などに好意を持ち、その者が有利になるように計らうこと。(普通、好意を受ける側が用いる) 用例：永年御愛顧をいただきまして～。

② 神が自発的に無代価で与えるもの

義務としてではなく、ご自分の愛のゆえに。神は人間を救う義務はなかった。恵まなければならない、負目、借りはなかった。

③ O.T.のヘセド “Spiros Zodhiates : One of the most important words in the O.T.”

親切、あわれみ、好意、善意、優しさ。

Steadfast Love しっかりしたぐらつかない愛(変化に動じない愛)、真実、誠実[ミカ6:8NIV mercy]、忠実、忠誠

*人間の側の理由や、良し悪し、成績、功績を問わずに人間を愛する。

④ N.T.のカリス

新改訳では：「恵み」(圧倒的に多い)、「感謝する」、「良いところ」、「喜ばれること」、「愛される」、「好意」、「恩」(恩寵)、「歓心」、「親切」、「献金」(I コリ 16:3)と訳されている。

(70 人訳では、ヘーン、ヘセドの訳語としてカリスが当てられている。)

NT 中 156 回、パウロ書簡に約 100 回、エペソに 12 回。手紙の長さではエペソが「恵み」を語る割合は抜群。

※「恵みがあなたがたの上にありますように」ということは、要するに神があなたがたに好意を寄せ、愛し、親切にしてくださいように、ということ。

エペソ書の中の「恵み」

① 「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安がありますように。」(1:2)

その保証は：源が、父なる神と、その恵みの管となって下さった主イエス！

これは祝福の祈り(祝祷)である。

「ありますように」は、お願いの祈りではなく、「あれ！」(権威ある命令)あるいは、「あるのだ」という宣言でもある。

祝祷は信仰をもって受け取れ → 本当に受け取る！ cf: 創 1:28 「神は～彼らを祝福し～」

例 John. Garlock 師に “God Bless You!” 答え “He does !”

② 恵みの栄光がほめたたえられますように(1:6) エペソ1章のお返し句

・出エジ 33:18～34:7 モーセ：「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」33:18。主(34:6)「主は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。「主、主はあわれみ深く、情け深い神、怒るのに遅く、恵みとまことに富み、～」と自己紹介し、栄光を現わした。それ以来、「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで」と歌うのが賛美の基となった。

・1:3-14 の賛美(歌)のおりかえし。基調となる音。 詩篇 136 も。

・わたしたちの人生の主旋律であるべき。

③ 神の豊かな恵み(1:7)

神の恵みによる、御子の血によるあがない、罪の赦し。

・川のように 「私たちは、この方の満ち満ちた豊かさの中から、**恵みの上にさらに恵みを受けたのである。**」ヨハネ1:16

④ 神はこの恵みを私たちの上にあふれさせ。(1:8)

この豊かな恵みはあふれている。

「しかし、罪の増し加わるところには、恵みも満ちあふれました。」ローマ 5:20

※ 罪よりも恵みのほうがより豊かに満ちあふれている。

⑤ **あなたがたが救われたのはただ恵みによるのです。(2:5)**

- ・これは挿入句。感きわまったパウロの叫び。本来は、8節で言うはず。待ち切れなかった。
- ・救われた。Gr. 完了形。「救われてしまっている。」
- ただ恵み。他の何ものでもない。自分自身から出たことじゃない。行ないによるのでもない。

⑥ **それはあとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを～明らかにお示しになるためでした(2:7)**

私たちが恵みによって救われたのは→神様の恵みのすばらしさ、豊かさを全世代、全世界、全宇宙に示すため

- ・「すぐれて」：行き過ぎるほど投げ飛ばすこと、という意味。パウロだけ使う言葉。
- ・「あとに来る世々」：再臨までの人々だけでなく、永遠に。→エペソ書の視界の広さ、深さ！
- 私たちはただ、自分の魂の平安や慰めのためにだけ救われたのではない。神のきよさ、神の義、そして特に神の慈愛(あわれみ)による恵みの豊かさを証拠だてる(明らかに示すため)ために救われた。

私たちは神のために救われている。(cp エゼ 36:22、23)

私たちは永遠に神の恵み深さを証拠立てるための「証拠物件」！

⑦ **あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。(2:8)**

V5に続いてもう一度宣言。

- ・神がわたしたちを救ったのは、ただひたすら、自発的な好意からである。
- ・恵みはただ無目的にばらまかれるものでない。目当ての者に、目的をもって与えられる。そして、それは信仰によって受け取られる。恵みは大水源。信仰はその水を有効に、実際に配給する水道管。

◎ 恵みこそ救いの基盤。そして信仰は救いの条件。両者とも、神から与えられる。→「神からの賜物です。」

⑧ **神の恵みによる私の務め(3:2)**

- ・パウロの場合は使徒、異邦人に福音を宣べ伝える務め(賜物でもある)が与えられていた。
- ・あなたにも、「」のためにと、私がいただいた神の恵みによる私の務め」がある。

⑨ **自分に与えられた神の恵みの賜物によってこの福音に仕える者とされました。(3:7)**

- ・私たちも、神の力の働きによって福音に仕えるのだ。他の人に福音を伝えるために必要な恵み(能力、勇気、力)を主はくださる。

⑩ **すべての聖徒たちのうちで一番小さな私にこの恵みが与えられたのは、私がキリストの測りがたい富を異邦人に宣べ伝え～(3:8)**

- ・「すべての聖徒たちのうちで一番小さな私」へり下っていったパウロ。ヘブル語名は「サウロ」。しかし、恵みによって救われてからは、ラテン語名の「パウロ」に。パウロ:ラテン語で「小さい者」
- ・「私は使徒の中では最も小さい者～」Iコリ 15:9 ・「私は罪人のかしらです」Iテモテ 1:15

⑪ **しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。(4:7)**

- ・「私たちはひとりひとり～恵みを」
- ・全員に何らかの賜物(自分に与えられている務めと密接な関係)を与えられている。ローマ 12:3,6
- ・主から与えられた恵みに応じて他の人に恵みを施す。恵みは、あくまでもふさわしくない者に一方的に与えられたものであって、宗教的修業の報酬ではない。

⑫ **ただ必要な時、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。(4:29)**

- ・このことばだけが、カリスではない。
- ・聞く人が好感をもち、魅力を感じずような言葉を話す。口語訳「聞いている者の益になるようにしなさい。」
- ・私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。IIペテ 3:18

⑬ **私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をもって愛するすべての人の上に恵みがありますように。(6:24)**

- ・Gr.に冠詞あり。「私がこれまで語ってきた恵み」という意味。恵みの祝祷で始まり、恵みの祝祷で終わるエペソ書。

パウロの「恵み」ということばの使い方

1. 人を救い導く神の恵み②～⑦ (1:6～、2:5～8) 6つ
2. クリスマンとして生きるのに必要なすべてを与える神の恵み。①、⑬ 2つ
Acts13:43 「～いつまでも神の恵みにとどまるように勧めた。」
14:26 「～以前神の恵みにゆだねられて送り出された。」
Ⅱコリ 9:8 「神はあなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」
3. 人がイエス様のためにする仕事を与えられる特権を意味する。その特別の仕事そのものをあらわすのにも使っている。(3:8) ⑧～⑪

天にあるすべての霊的祝福 1:3-14

■1:3-14 神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。

・「すでに祝福されている！」という信仰姿勢が大切。“I am blessed♪” 祝福されているから、感謝、賛美、礼拝をたずさえて神の家に来る。アダムも創世記 1:28 で神に祝福された。

● 3つの「1章3節」

3つとも「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。」という言葉がある。

- | | |
|-------------|------------------------|
| ・エペソ 1:3 | → 過去の祝福(現在も続いている) |
| ・Ⅱコリント 1:3 | → 現在の慰め(慈愛の父、すべての慰めの神) |
| ・Ⅰペテロ 1:3、4 | → 未来の資産が天にたくわえられている。 |

☆完全にして十分な救い！ ☆満ち満ちた救い！

では、「霊的祝福」とは何か。その一部がV4～14 までである。

1章

- | | | |
|----------------------------|-----------------------|----------------|
| V4 父なる神に選ばれた | V6 神の子とされた | V7 血による贖い 罪の赦し |
| V11 御国を受け継ぐものとされた | V13 救い(2:5) 聖霊をいただいた | |
| V18 望み | V19 私たち信じる者に働く神のすぐれた力 | |
| V20～22 キリストにある私たちの立場 (2:6) | | |

2章

- | | | |
|-----------|--------------|-------------|
| V8 信仰 | V10 良い行ない | V13 近い者とされた |
| V15 律法の廃棄 | V19 神の家族とされた | |

3章

- | | |
|----------|------------------------|
| V5 奥義の啓示 | V6 異邦人とユダヤ人が一つのからだに連なる |
|----------|------------------------|

● St. Paul's Psalm

1:3-14 は、“St. Paul's Psalm”と呼ばれる。言語のギリシャ語では3節～14節までピリオドがない。(他に1:15-23、2:1-9、3:1-7。) この箇所はパウロの手紙の中では最も長いあふれるばかりの賛美である。

※霊的祝福ゆえの賛美。ギリシャ語では、V3 は“ほむべきかな！”で始まる。その後の祈りは、霊的識別力のための祈り。

*****1:3-14 のアウトライン*****

1. 父なる神から (V4~6) (救いの計画)
 - ① 選び (V4)
 - ② ご自分の子にする (V6)
2. 子なる神から (V7~12) (救いの実現)
 - ① 贖い すなわち罪の赦し (V7)
(みこころの奥義を私たちに知らせてくださった。 V9) 啓示
(キリストにあって1つに集められること V10)
 - ② 御国を受け継ぐ者となった (V11)
(「みこころによりご計画のままをみな実現させる方」! V11)
3. 聖霊なる神から (V13, 14) (救いの確証)
 - ① 証印を押された (V13)
 - ② 保証となってくださった (V14)

1. 父なる神からの霊的祝福

① 選び (V4)

- ・神様がご自分のため私たちを選んで下さった。
- ・選ばれた理由は人間側にあるのではない。
「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、～」ヨハネ 15:16
- ・私たちに功績はない。(I コリント 1:26~29) この世の愚かな者、弱い者、取るに足りない者、見下されているものを神は選んで下さった。
- ・なぜ選んで下さった? 愛して下さったから、あわれんで下さったから。 V5(欄外の別訳は V4)「愛をもって」
- ・いつ? → 世界の基の置かれる前から。永遠の過去。救いの計画は、急に思いついたことではない!
「われわれの救いは、行きあたりばったりな、思いつきの偶然ではなかったのである。」
*人間が罪を犯した時、神様は「いや—失敗した。どうしよう?」とは言わなかった!
- ・どのようにして → 「キリストのうちに」 資格は私たちにではなく、イエス様にある。
「ここで私たちは神の恵みの奥義に直面します。このような奥義の前では、心を低くし、私たち自身の理解力の限界を認めて、神の選びの恵みの厳粛で実際的な計画に敬虔な思いをささげるべきです。」 F. F. ブルース
- ・選ばれた目的 御前で聖く、傷のない者になるため。
「御前で聖く」とは、禁酒禁煙などのような外形的きよめではなく、愛に満ちた、温かい内から香り出るような聖さ。
御前で聖く 傷のない者
聖化 → 栄化
いま徐々に やがて完全に
- ・聖いから選ばれたのではない。 聖くなるために選ばれたのだ。「なれ」と命じているのではなく、確実にそうなるように選ばれている!
- ・「この選びの愛は、それを理屈で解明しようとする者たちよりも、聖いイエス様に似た生涯を送ろうとする者たちによって、一層高らかにほめたたえられる」 F. F. ブルース

② ご自分の子にして下さる (V5)

- ・「ただみこころのままに」 → 神がご自分の満足の行くまで丹精こめて練りに練って定められた。
NIV “~in accordance with his pleasure and will”

・「あらかじめ定めておられた。」宿命論や決定論でない。私たちの罪を見越した上で気まぐれや間違いの多い人の世の常と違って私たちがイエス・キリストによって神の子とされたことの確かさ、計画性を言っている。

∴ パウロが大賛美する。

・「神の選び、神があらかじめ私たちをご自分の子になるように定められた理由を、私たちのうちに見出すことはできません。神が私たちをこのような栄誉のために選び出されたのは、神が私たちのうちに満足できる何かを予知されたからでも、私たちが福音を信じるであろうことを予知されたからでさえもありません。その理由はもっぱら神ご自身の恵みあるご性質のうちに求められなければなりません。」 F. F. ブルース

・「ご自分の子にする」 天父との調和した関係に入る。「アバ父」と親しくなる。こんなに親しい神って、他にいますか？

・養子にされるということ

・ローマ法では、養子は実の子と全く同じ身分と立場になる。権利、特権、責任においても。

∴ イエス様と同じ身分。共同相続人！ ローマ 8:15～17 Iヨハネ 3:1、2

2. 子なる神からの霊的祝福

① 贖い(V7) 血による贖い

・贖い： 買い戻す *代価によって解放すること。

Ps.49:7,8 「たましいの贖いしろは高価であり、永久にあきらめなくてはならない。」 その永久にあきらめなければならなかった「たましいの贖いしろ」をイエス様が払ってくださった。

「ヤギと子羊の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」 ヘブ 9:12

罪の奴隷、死の恐怖の奴隷から私たちを解放して下さった。この贖いの結果として罪の赦しを受けている！

・啓示(V9)も大きな祝福

みこころの奥義(救いの計画)を私たちに知らせてくださいました。

・「奥義」とは、昔は隠されていたが、今は主のしもべによって明らかにされていること。 e.g. 聖餐式：ノンクリスチャンにはわからないがクリスチャンには明らか。

・御子イエス・キリストを啓示されているという事は、何と感謝なことか。 ガラ 1:16 「～御子を私のうちに啓示することをよしとされたとき～」

・キリストにあって一つに集められる。(V10)

宇宙大のビッグイベント。「神の最重要計画」。

・「一見すれば歴史は、無秩序なよう。しかし、世界の諸事件、諸国の興亡盛衰も神のみこころの実行を妨げることはできず、むしろ、そのすべては深い意味において、神のみこころを着々と実現させる小道具であり、脇役であったのである。」

☆ イエス様のベツレヘムでの誕生の背景

☆ おすすめのテープ：「かわいそうな毛沢東」 P. カウフマン

☆ 今の日本や世界で起きていることも、偶然、無目的ではない。

・「時がついに満ちて」「時」単に流れる時(クロノス)ではなく、格別な内容のある時を意味する、カイロス。

● 「一つに集められる」の三つの意味

・Gr. Anakephalaioo 【Key word】

ana = up Kephale=頭 = 「ひとつの頭のもとでつくりあげる」というような意味。

数学では「合計する」こと、論理学では一連の論議をまとめて「要約する」ことを表わすのに用いられる語。

ローマ 12:9 では「要約される」と訳されている。

新共同訳：「頭であるキリストのもとに1つにまとめられます」

① (1つに)統一する

・ありとあらゆる出来事や存在には統一があって、その中心がキリストということ。

② 従属すること、支配の下に服すること

・やがてはあらゆる存在がキリストの御支配の下に服するという事。

③ 全体をまとめて分かりやすくする(万事万物を合計するとキリストになる)

・全世界の意味を分からせるのがキリストである。

・歴史のどんな時代も、人の一生のどんな時期も、天と地のどのような出来事も、キリストという神の奥義から離れては、意味をなさない。 cf: I コリント 3:21~23

・イエス・キリストに焦点を合わせて見た歴史と人生と世界は、統一ある意味をもって私たちのものとなる。

・人類は、分裂した世界に生きている。どこを見ても分裂。民族同士、個人と個人の間にも憎しみや分裂がある。一個人の中にも分裂と戦いがある。→ 善と悪、正義と不正、本能と意志。

イエス様が来たのは、この分裂を拭き取り、裂け目や分離を閉じてすべての人を1つとするためにこの世に入って来られた。これは個人から始まり、教会、民族へと広がる。事例：アメリカン・インディアンと白人間に、ユダヤ人と教会(メシアニック・ジューと異邦人クリスチャン間)に、日本人と韓国人間に。

・同じ獄中書簡の中で、パウロは同じことを別な言い方で言っている。すべての箇所「天にあるものも地にあるもの」という表現が使われている。これは、全宇宙的なイエス様の支配を表す。

ピリピ 2:10、11 「ひざをかがめる」

コロサイ 1:20 「和解」

・ある人は、この「キリストにあって1つに集められること」を「歴史の終点」と言った。しかし、スタートでもある。(この点に関しては、ナルニア国物語の「最後の戦い」がオススメ。)

・「実行に移され」

Gr. オイコノミア＝「家事をとりしまる」 名詞は、オイコノモス＝家庭内のこまごました問題が円滑に、滞りなく運ぶように目を配る家令(かれい: 使用人の監督をする人)あるいは管理者という意味。

・ イエス様が「時」、「歴史」というものの管理者

∴ あらゆる時代を通じて歴史は、この「1つに集められる日」にそなえて、計画され、配置され、管理されてきた、ということ。まさに、"History is His Story." 今も歴史はすべてこの目的に向かって進んでいる。

② 御国を受け継ぐ者となった (V11)

・「彼にあって」 彼は V10 いっさいのものをご自分のもとに集めるキリストにあってということ。

・これは、天国にあるすべての良きものを受け継いでいるということ。フルに相続するのは未来だが、もうすでに「御国を受け継ぐ者」になっている！ cp: 1:18

・まずユダヤ人(V11~12の「私たち」)

そして(V12, 14の「あなたがた」)異邦人

・目的は、①「神の栄光がほめたたえられるように！」

これは客観的に②「私たちを神の栄光のほまれとならせる」ことをも含んだ表現。つまり、私たちを見るだれもが神の栄光をほめたたえざるを得ないという存在となるよう、定められているということ。→ 今のイスラエル国家存在の奇跡を見て主をほめたたえざるを得ない。これから増々、これが実現していく。

・「ユダ」という名前の意味：「今度は主をほめたたえよう」とレアがつけた名前。それゆえ、ユダヤ人、又、クリスチャンは、主をほめたたえる声を引き出すべきものである。

3. 聖霊なる神からの霊的祝福

① 証印 (V13)

・証印とは、当時:①木材を買った人が自分の所有を明らかにするために、焼印をした。エペソの港で木材の売買がなされた。買主は木材に焼印をして自分の所有を明らかにした。

②手紙などに用いられた封印や印章を意味することば。国王の書簡や公文書にも用いられた。

*聖霊は、私たちが神の子として受け入れられたことを証明する「しるし」。救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって与えられた。

② 保証 (V14) Gr. アラボン 現代ギリシャ語では、「婚約指輪」という意味に使われる。

・当時の商取引に用いられた「手付金」を意味することば。この前渡し金によって取引を確実なものとし、やがて全額が支払われてその契約が果たされることを「保証」するもの。

神は、クリスチャンに、来るべき御国を受け継ぐことの実確な保証として聖霊を与えて下さった。

V14 「インターリニア ギリシャ語新約聖書」(白畑司編集)

「聖霊は、所有物の贖いのときに向けた私たちの相続財産の手付金です。神の栄光がほめたたえられるためです。」

a. 神様は約束したものを全部必ずあげますよ、ということ。

b. もうあなたを買い取りましたよ。必ず私のみもとに導きますよ、という保証である。

聖霊による喜びを感じたことがありますか? → 天国ではフルに感じますよ!

聖霊によっていやされたことはありますか? → 天国ではフルにいやされますよ!

聖霊による平安を感じたことはありますか? → 天国ではフルに感じますよ!

聖霊によって安全を感じたことはありますか? → 天国ではフルに感じますよ!

信仰と愛、感謝と祈り 1:15-19

■1:15, 16 本物の愛は聞こえてくる

・「主イエスに対するあなたがたの信仰」 真の信仰のあるところに本物の愛がある。

・「すべての聖徒に対する愛」 「もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」ヨハネ 13:35

・「愛とを聞いた。」 本物の愛に聞こえてくる。

・聖徒に対する愛は「とりなしの祈り」で始まる。

・使徒パウロ自身の祈りの生活が紹介される! 「立ち聞き」できる。

・その祈りの内容とは

① 感謝をささげる

・神が1人1人のうちに始められた良い働きのゆえに。その人に与えられた恵みを考えよ。

感謝を呼びませ。感謝があると祈り易くなる。

※祈りはサンドイッチ: 【感謝】

[祈りと願い]

【感謝】

② 「あなたがたのことを覚えて祈っています」

Gr. Mneia II テモテ 1:3「思い起こす」と同じ語。「記念碑」(使徒10:4)と同じ語。

「述べる」、「名前をあげる」ことを意味する。ローマ 1:9、I テサ 1:2、ピレモン V4

・“I never give up praying for you” (J.B.Phillips 訳) 「あの人は変わりっこないよ。」と言わない! 「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」絶対にあきらめない。今日のあなたがここにいるのは、誰かがあなたのために祈ったからである。

■1:17—19 パウロのとりなしの祈り

● パウロのとりなしの内容 V17～19

・神を知るための知恵と啓示の御霊が与えられるように。

・誰が与えて下さるのか？ 「栄光の父」人の心に光を輝かす源なるお方。

反対に「オカルト」:語源＝覆う、隠す。意味:神秘的な、秘学、秘伝の。

・啓示 “覆いはずすこと、秘密を公表すること” これは神様にさせていただかなければならない。

∴ だからこの祈りを自分のために、主にある兄弟姉妹のために祈ろう。

「～兄(姉)を祝福して下さい。」よりも、どういう祝福を受けているのかを知る事ができるように祈ろう。

L.B. 「どうか主イエス・キリストの神様、すなわち栄光の父があなたがたに知恵を与えて、キリスト様がどのようなお方か、また何をしてくださったかを、正しく、はっきりと理解させてくださいますように。」V17

・一夜にしては実現しないだろうが、続けて祈っていくうちに主をもっと深く知るようになる。そして私たちの身の周りに起こるすべての出来事に神様がかかわっておられることがわかるようになる。この知恵と啓示の霊があれば、花ひとつ見ても、主を感じ、主を知る事ができる。日常生活の中にも、主を感じ、主を知る事ができる。

創世記 28:16 ベテルにて、ヤコブ:「まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった。」

ヤコブの場合は、夢で啓示が来た。

・「心の目がはっきり見えるようになって」心の目についているうろこを一枚一枚取ってもらおう。「頭目」とは書いていない。心の目。神様を知ることは単に頭脳や知性の問題じゃない。心のあり方が問題。心の目が開かれると必ず、神様に対する愛のこもった心、人格的交わりをもたらす。

・イエス様が復活後の弟子たちにしたようにしていただく:

ルカ 24:45 「そこで、イエスは、聖書で悟らせるために彼らの心を開いて、こう言われた」

※エマオ途上で開かれた3つのもの

① 目(V31) ② 聖書(V32) ③ 心(V45) 結果は「心が燃やされる」(V32)!

● では、パウロはどんな3つのことを知る事ができるように、と祈ったか。

1. 神の召しによって与えられる望み

・「望み」 Gr.には、単数形で定冠詞がついている。つまり→「あのひとつの希望」

聖書的望み＝良いことが起こるといふ、確固たる期待。「とにかく主は良いことを起こして下さい！」

・「召し」英語: Calling 教会: エクレシア「召し出された者たち」

ご自分の元に来るようと、神様から招かれること。それは今も続いている。神様にお声をかけられたことの幸い。救われた時から、心に希望が入った。

希望とは? 天国に行ける、死んでもやがて復活し新しい体を与えられる、再臨、朽ちることも汚れることも、消えていくこともない資産(I ペテロ 1:4)、キリストの似姿に変えられる(ロマ 8:29、Iヨハ 3:2、Rev22:3～5)、「もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない」

※「この希望がどんなものか増々はっきりわかりますように」という祈り。

2. 聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか

① 確かに、これを相続するのは未来のことだが、その相続の栄光の豊かさは今、「聖徒たちのうちにある」

莫大な富が天国にある。でも、今から与えられている。1人1人のうちに神が働いている証がある。

救いの様々な証し: 癒し・解放・喜び・平安・赦し・赦すこと・臨在

「もし子供であるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人でもあります。」ローマ 8:17 cp: コロサイ 1:12

詩篇 73:25、26「神は～私の分。」地上で何を失おうとも、神ご自身を持つ事ができたら、これ以上の富はない!

② 「聖徒の受け継ぐもの」と「神の受け継ぐもの」

- ・1:18 のギリシャ語原文を直訳すると、「聖徒たちのうちで、彼(神)の受け継ぐものの栄光の富は、どんなものか」となる。(榊原康夫)
- ・私たちが受け継ぐもの事を指していると解釈することもできようが、私たち「聖徒」が神の受け継ぐものである、と解釈することもできる。
- ・旧約聖書でも、イスラエルの民が主にとって「ご自分のもの」とされている。申命記4:20「主はあなたがたを取って、鉄の炉エジプトから連れ出し、今日のように、ご自分の所有の民とされた。」 I 列王記8:53、詩篇33:12、イザヤ19:25
- ・つまり、神の民が、神の相続財産であり、神の所有物であると言う考え。そして、それによって神がご自分の栄光の限りない豊かさを万物に示す。(v.11、14) この神の受け継ぐものは、今現に教会の中にあってその豊かな栄光を見せている。
- ・パウロが祈っているのは、今、「聖徒たちのうちにあるすばらしいものを見ることができるような心にして下さい」ということ。
- ・これは私たちの真のアイデンティティと関係のある事。「私たち」が神の受け継ぐものである！
- ・雅歌で、「クリスチャンとイエス様の関係の成長」を見ることが出来る：
 - ① 1:14「私の愛する方は、私にとっては、エン・ゲディのぶどう畑にあるヘナ樹の花房のようです。」
 - ② 2:16「私の愛する方は私のもの。私はあの方のもの。」
 - ③ 6:3「私は、私の愛する方のもの。私の愛する方は私のもの。」
 - ④ 7:10「私は、私の愛する方のもの。あの方は私を恋慕う。」

3. 神の全能の力の働きによって、私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どのように偉大なものであるか

- ・ここで神の力の偉大さを示すのにパウロは知る限りの「力」を表現する言葉を使う。
 - 根 ① 全能(イスクス) その人が備えている固有の力、内在の力
 - 幹 ② 力(クラトス) 敵対する力や妨げになる障害に抵抗して克服するような力
NT では Heb 2:14 以外必ず神にだけ使われる。
- 果実 ③ 働き(エネレゲイア) エネルギー。 力の実際の行使や活動を表す。 Action, Operation
- ④ (すぐれた)力(デュナミス) 一般的な意味の力。 ダイナマイトの語源

a. 私たち信じる者に働く～力

- ・誰か他人に働く力でなく、この「私」が信者になるために神様が働かせた力、又、今働かせ、これからも働かせる力。 すごいと思いませんか？「あなた」が、「わたし」が救われたということは？！
自分のことは、自分が一番知っている。
パウロ→『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。」 I テモテ 1:15、16

b. 信じる者に働く力

- ・創造の力や摂理の力は、相手が信じるか信じないにかかわらない。しかし、神様の救いの力は、相手が信じて受け入れるかどうかに関係する。 大水源と水道管の関係。
イエス様はトマスに言った：「信じないものにならないで、信じる者になりなさい。」 ヨハネ 20:27
イエス様を信じる者は、損をしない。儲かる！ → 救い、永遠のいのち
「たとい人が全世界をもうけることができたとしても、ほんとうのいのちを失ってしまったら、いったい何になるでしょう。」 マルコ 8:36

c. 私たち信じる者に働く

- ① 「私たち」を「信じる者」に変えた神の力（過去）
- ② 将来私たちをよみがえらせる力（未来） V20 イエスをよみがえらせたと同じ力
- ③ 今、信じる私たちに働いて、神様のみこころを私たちのうちに完成させる力（現在）

※「すぐれた力」 直訳「超過する大きさ」「行きすぎるほど投げ飛ばす」

この語の使われる例：「絶大な神の恵み（Ⅱコリ 9:14） 「すぐれて豊かな恵み（Ⅰペテロ 2:7）

人知を「はるかに越えた」キリストの愛（3:19）、「数えきれぬ」むち打ち（Ⅱコリ 11:23）と訳されている。

- ∴ 信じる者の認識、評価を「はるかに越えて」「数えきれない」ほどの大きさの力！ 私たちを救い、守るために、神様はあり余るほどの力、もったいないと思える程の力を用いてくださる。例：イザヤ 43:1～7

d. この神のすぐれた力の実例（V20）

- ・キリストのよみがえり 「キリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせて、」ある意味で創造よりすごいこと。ズタズタになったイエス様の体を栄光の体に！ 悪霊のバリアを破るほどの力。
- ・いやしも神の力だが、最たる現われは、死んだ者をよみがえらせること。
- ∴ この神様の力は、死人をもよみがえらせるほどの力なのだから、どんな問題をも解決し、勝利を与える力。Ⅱコリント 1:8～10 「死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となる」
- 主のすぐれた力は、日々私たちを助ける力、いやす力、奉仕する力、あかしする力、きよめる力、守る力。

すべてにまさる御名 1:20—23

■1:20—21 神の力は、キリストのうちにどのように具体的に現わされたか：

- ① よみがえり V20
- ② 昇天 V20(天上において)
- ③ 神の右の座に着座 V20
- ④ すべての名の上に高く置かれた V21

1. よみがえり

・十字架—神の愛の現われ。 よみがえり—神の力の現われ。

2. 昇天（V20）「天上において」

- ・ヨハネ 14:2, 3 「あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。」そのために昇天。
- ・イエス・キリストの昇天は、地上にいる信じる者に聖霊が注がれるため「わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去っていかなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。」ヨハ 16:7
- ・昇天は、イエス様の死、復活と1つ。昇天によって、贖いの御業がある意味で始まる。聖霊の注ぎ、私たちのために日夜とりなし、信じる人々を救うという御業。

3. 神の右の座に着座する

- ・「神の右の座」 ① ある場所よりも、力と権威のあるところ。全宇宙で最も榮譽のある、権威のある場所。
- ② 神の右腕として働くこと 「実行委員長」「執行部長」つまり、全世界、全宇宙を治める方、王の中の王として君臨している方。

それゆえ、 ① 恐れることはない 何をも。見えるものも、見えないものも。

一般のエペソ市民は「アルテミス神殿の守護者」であることを誇りとしていた。偶像に満ちた

今の日本と似ている。でも、恐れる必要はない。

- ② 主とともに治めることを覚えよ 自分にあたえられた領域で。家庭、職場、地域で
ローマ 5:17「～ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです」

4. すべての名の上に高く置かれた

・ピリピ 2:8 「キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。 それゆえ、神はキリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。」

※「それゆえ」を忘れない。 イエス様は「天下り人事」ではない！

● イエス様の御名は

① 美しい

・雅歌 1:3 「～あなたの名は注がれる香油のよう。」

人が発音できる最もすばらしい名。 イエス＝「主は救い」 心からこの名を呼んでみよ。礼拝せよ。

② 力強い

・「すべての支配、権威、権力、主権の上に」 これらは悪霊の位を示している。 この名によって悪霊を追い出す！

・「今の世だけでなく、次に来る世においてもとなえられる」

この世はサタンの一時的支配下にある。 次に来る世においては、なお一層、公に現わされる。

■1:22 「神はいっさいのものをキリストの足の下に従わせ」

・征服者のイメージ（ヨシ 10:24、25 イザ 51:23） 征服者が敵の頭を足の下に置く習慣があった。
イエス様は、「年功序列」で「すべての名の上に高く置かれた」のでない。 征服者として上に置かれた。

○「サタンにメッセージがあったら足の裏に書け！」

・「神はいっさいのものの上に立つかしらであるキリストを教会にお与えになった」

V21～23 すべて(いっさい)という言葉が6回使われている。 イエス様は全地をすべ治めていることを強調。

地球を支えている方が教会をも守る！

・神がすばらしい贈り物としてキリストを教会に与えてくださった。 それゆえ、ある人が地上の教会のかしらと名乗るのはおかしい。 教会のかしらはイエス・キリストお一人。

■1:23 「教会はキリストのからだ」 新約聖書の啓示

・イエス様が私たちがあてにして下さっているということ！ 頭はからだを必要とする。 からだは頭なしに存在、機能できない。 神の民が「からだ」であるという概念は旧約聖書にはない。 パウロにとっては、ダマスコ途上、「なぜ、私を迫害するのか」というイエス様の言葉によって、「キリストの体」概念が深く印象付けられたのではないか。

・「いっさいのものをいっさいのものによって満たす方のみちておられるところ」

イエス様はどこにでもいる。「天にも地にも満ちている。」しかし、特別に教会に「満ちておられる」方である。

主は住まいとして、天ではなく、神の家を選ばれた。「主はシオンを選び、それをご自分の住みかとして望まれた。」 詩篇 132:13 イエス・キリストの教会に連なることの大切さを教えられる。

エペソ 2 章

大いなる「しかし」 2:1-10

■2:1-4

V1~3 救われる以前の私たちの様子

実例：大きな邸宅と財産を受け継いだスコットランドのある貧しい羊飼

・2、3 節は挿入句。私たちは何と救いを必要としていた者であったか。対称的なのは、罪過と罪の中に死んでいた私たちとあわれみ豊かな神。

V1 自分の罪過と罪の中に死んでいた者

- ・罪過 (Gr. パラプトマ — 道からはずれる、まちがった歩み、脱線)
- ・罪 (Gr. ハマルテイヤ — 的をはずすこと。NT中で神のみこころに従うことの失敗を表現する最も一般的な語)
- ・罪人の一つの性質は自分が罪人であることを知らないこと。
- ・「死んでいた」：霊的に死んでいた。神様との交流なし。神から離れた状態。死人が「歩んでいました」：ゾンビ！

V2, 3 以前の状態の説明。罪を知ることも罪と戦うこともできずに流される。

- 世** 「この世の流れに従い」：この世のものの考え方、やり方に従って、流されていた。「死んだ魚」のように。
- ・流れの方向、滝のように、滅びに向かって。 クリスマスはサケのように！
 - ・ガラ 1:4「キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。」 使徒 2:40「この曲がった時代から救われなさい。」

- サタン** 「空中の権威を持つ支配者」 — サタン cf: Iヨハネ 5:18~20
- ・「第2の天」 6:12 「天」にいるもろもろの悪霊の首領。
 - ・「今も不従順の子らの中に働いている霊」 例：メディア(テレビ、新聞など)で主があがめられない理由
 - ・キリストの福音に反抗する。
 - ・「不従順の子ら」 ヘブル語ではその性質や特質を帯びる人たちを「～の子ら」と表現する。その生活が不従順によって特徴づけられている人間のこと。
 - クリスマスは、「従順な子どもとなりなさい」Iペテロ 1:14 「光の子どもらしく歩みなさい」5:8

V3 「私たちもみな、かつては」「私たち」とはユダヤ人のこと

・生まれと教育によつてのユダヤ人も、偶像礼拝者として生まれ育つた者も、等しく、生まれながら御怒りを受けるべき者だった。

- 肉**
- ・「自分の肉の欲の中に生き」 人間の内的腐敗(V2が外からの腐敗であるのに対して)
 - ・いわゆる肉欲、性的罪のことだけではない。自分自身の考えや好みを中心とした生活。決った原則なしにいろいろな欲に振り回される生活のこと。
 - ・「肉」：(ブタ)肉のことではない。古い性質。新生していない人間性。神からの働きかけのない、生まれながらの性質。偶像礼拝、みだらなこととかたちにもなり、体裁のいい、宗教心、愛国心、ヒューマニズムとかたちをもとる。
 - ・「心」：思い、考え。外側に現われる行為だけが罪ではない。「内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、～」マルコ 7:21。

※(「額」：黙示録 13:16, 14:1, 22:4 主に思いをささげることを言う。)

・「御怒りを受けるべき子ら」：神の御怒りに会うに価する罪人、罰せられて当然な人。生まれながら罪を持ち、その後も V.1~3 のように罪の中を歩んで、不従順であった私たちは、全く義なる神様にさばかれて、当然地獄に行かねばならなかった。 Cf: ヨハネ 3:36、ヘブル 10:26、27

V4 大いなるしかし「しかし～神は～！」But God

・「神の御怒りだけが情景のすべてではありません。それは、神の恵みと愛が光り輝くための舞台背景です。」

- ・すべての人は、御怒りを受けて滅ぼされて当然。しかし、絶望的な人類にうれしい知らせ、良きおとずれである福音、Good News が伝えられる。
- ・「あわれみ豊かな神は、私たちを愛して下さった、その大きな愛のゆえに」 ● 救いの原因は神にある。
- ・「Gr. エレオス」： 他人の悲惨に同情して救助したいと思う気持ち、時には言葉、多くは行動となって現われる同情。
- ・「愛」： あわれみをよりもっと強く、主はご自分の命をささげて下さった。

■2:5-10

● 「B.C. A.C. In.C.」

Before Christ V1~3 キリストを受け入れる以前

After Christ . V4~10 キリストを受け入れてから

In Christ V5~10 キリストにあって

V5 「罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし」

V6 キリスト・イエスにおいて よみがえらせ

① 「キリストとともに」 “Identification with Christ”

- ・かしらなるイエス様に起ったことがからだなる私たちにも起った。 1:20~21 と 2:5, 6 の同一性。
- ② 「共同の教会とともに」： 一人一人の中身を見ると弱しく、「天の所にすわらせて」いただいているという感じがしないかも知れないが、2000年の歴史を持ち、全世界に広がる共同の教会の一部を見ると、勝利者・征服者ということができる。 ♪ 「神の教会は今生きていて、敵に勝利し、今日も進む！」 ♪ “The Diminishing Task”
- ・「あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです」これは、挿入句。 感極まったパウロが叫ぶ！ 本来は8節で言うはず。 待ち切れなかった。
- ・「あなたがたが救われたのは」： 過去形。「救われつつある」(進行形)でも、「救われるのは」(未来形)でもない。

原語の「完了時制」を強調して訳せば：「救われてしまっているのは～」

・「ただ恵みによるのです」： Amazing Grace (聖歌 229 番) 元奴隷商人ジョン・ニュートンの証し

V6 「ともに天の所にすわらせてくださいました」 例： 北京の紫禁城の王座は、二人が座れるほど幅広だった。

- ・「天の所」： 私たちの身は地上にあるが、身分(立場)は天にあるということ。
- ・神の右の座とは： ① 力と権威のあるところ。→ 恐れない
- ② 神の右腕として働くこと→ 王にもその領土があるように、私たちも自分の領域で、主とともに治める。

- ・「すわらせてくださいました」とは： ① 贖いの完成(すわっている)
- ② クリスマン生活を日々生きる力。ただだまってすわっているのではなく、勝利者イエスとともに、日々の生活において勝利することを意味する。

・私たちはなぜ救われたのか？

V7 「それは、あとに来る世々において」 → もちろん再臨までの時でもあるが、千年王国も含み、更に無限の将来に、そして、永遠に、ということ。 主は永遠をかけてご自分の恵みの豊かさを示して下さい！！

・「このすぐれて豊かな御恵みを～」

「すぐれて」 Gr. ヒュパーパロウ 「行き過ぎるほど投げ飛ばすこと」の意。 パウロだけが使うことば。

○私たちが恵みによって救われたのは、神様の恵みのすばらしさ、豊かさを、全世代、全世界、全宇宙に明らかに示すため。

○「私は以前はこんな者でした。(2:1~3) しかし恵みによって、罪と死の中から生かされて今の私になりました。」

LB「～私たちは今、その恵みがどんなに豊かであることを示す、見本となれるのです。」

「見本」とは、動かぬ証拠物件。 この教室に「20 数個」の神様のすぐれて豊かな御恵みの「証拠物件」がある！ あなたの「御恵みの証し」を守ろう！ 自分では、「普通」に思える証しでいい。 それを生き続け、語り続けよう。

・私たちはただ自分の魂の平安や慰めのために救われたのではない。神様の慈愛による恵みの豊かさを証拠立てる(明らかに示す)ために救われた。

・**神のために救われている**という概念が大切！イスラエルへの下記の御言葉を私たちにも当てはめる事ができる。
「それゆえ、イスラエルの家へ。神である主はこう仰せられる。イスラエルの家よ。**わたしが事を行なうのは、あなたがたのためではなく、あなたがたが行った諸国の民の間であなたがたが汚した、わたしの聖なる名のためである。** わたしは、諸国の民の間で汚され、あなたがたが彼らの間で汚した**わたしの偉大な名の聖なることを示す。**わたしが彼らの目の前であなたがたのうちにわたしの聖なることを示すとき、諸国の民は、わたしが主であることを知ろう。——神である主の御告げ。——」 エゼキエル36:22, 23

V8 「あなたがたは恵みのゆえに信仰によって救われたのです」

・V5に続いてもう一度宣言。爆発！

V8, 9 私たちの救いが2つの否定文と2つの肯定文によって証明されている：

否定文

① 自分自身から出たことではない(V8)

② 行いによるのではない(V9)

行いによる救いを教える悪い例：「人類の救いのために神は 95%のことをするが、後の 5%は人間がやらなければならない。」 統一教会 ヨハネ 6:28, 29

肯定文

① 恵みのゆえに、信仰によって救われた

恵みはただ無目的にばらまかれるものではない。目当てのものに目的をもって与えられる。そして、それは信仰によって受け取られる。 **例**：恵みは大水源。信仰はその水を有効に実際に配給する水道管。

② 神からの賜物 恵みも信仰も神からの賜物。神の自発的な好意。

・では救われたら、それだけでいいのか？

V10 「私たちは神の作品であって」 エルサレム聖書訳「神の芸術作品」

「良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られた。」 良い行いは、救いの条件ではなく、救いの結果である。救われたから、良い行いはいらぬということでもない。神は、「私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださっている」。V2 では、「不従順の子らの中に働いている霊に従って歩んでいた。」救われた者は、良い行いに歩む者となろう！

例 東京のある喫茶店で、客が壁にコーヒーをかけてしまった。近くの美術大学に通う学生が、その壁についてしまったコーヒーのしみを「かもしか」の絵につくりかえた。

「キリスト・イエスにあってひとつ」 2:11-22

・v.1~10 は、救いを個人的に説明。 V.11~22 は、救いを教会全体的に説明。

① 11, 12 キリスト以前の姿

② 13~18 ユダヤ人と異邦人をひとつにしたイエス様の御業

③ 19~22 このイエス様の平和に基づいて建てられる公同の教会の姿

■2:11, 12 キリスト以前の私たちの姿

V11 「思い出してください」

申命記15:15「あなたは、エジプトの地で奴隷であったあなたを、あなたの神、主が贖い出されたことを覚えていなさい。」

O.T.では、過越しの祭り、N.T.では、聖餐式を通して主の贖いを思い出す。

救われたことで高ぶらない。「選民意識」で高ぶらない。へりくだろう！ 救われる以前の自分の姿を忘れない！

V12 異邦人が欠く5つのもの

○「キリストから離れ」 救い主、神と人との仲保者がいない。

○「イスラエルの国から除外され」

○「約束の契約については他国人」 様々な霊的、物質的祝福の約束を受けられない。 [例] 無国籍児

○「この世にあって望みもなく」 未来に対する希望がない。

○「この世にあって神もない人たち」 私たちが「**私の神**」(詩篇に多い)と言えることの幸い！

■2:13—18 私たち(ユダヤ人と異邦人)をひとつにして下さったイエス様の働き

V13 「**しかし**」 再び、うれしい「恵みのしかし」が登場。 暗闇から一転して光の世界に！

☆「**キリスト・イエスの中にあること**」 私たちは、「アダムにあって」、罪、死、呪いを受けた。しかし、「キリストにあって」、義、いのち、祝福を受けている。

・V11 「肉において」、V12「この世にあって」、「キリストから離れ」と「キリスト・イエスの中にあること」の対比に注意。

・V13 「キリストの血によって近い者とされた」！ 詩篇 73:27, 28 を私たちの祈りとすることができる。

「それゆえ、見よ。 あなたから遠く離れている者は滅びます。あなたはあなたに不誠実な者をみな滅ぼされます。 しかし私にとっては、神の近くにいることが、しあわせなのです。私は、神なる主を私の避け所とし、あなたのすべてのみわざを語りあげましょう。」

※V13 は V14～18 のまとめと言える。これは、パウロあるいは、別な人物の歌ではないと言われる。

V11～13「あなたがた」 V14～18「私たち」 V19「あなたがた」 結びの V18 で、三位一体の神を語って閉じる。

V14 なぜ遠く離れていた私たちが近い者とされたか？

① 「キリストこそ私たちの平和」だから

イエス様は平和の君(イザヤ 9:6)。イエス様だけが人々の間に平和をもたらすことができる。

② イエス様が「二つのものをひとつにし」てくださったから

ユダヤ人と異邦人は、大変軽蔑し合っていた者同士。互いの間に恐い裂け目があった。その二つのグループをひとつにしてくれた。

③ 「隔ての壁を打ちこわして」くださったから

・エルサレム神殿跡で一つの文が発見された。外庭(異邦人の庭)から14段の階段で内庭にあがると、1mの高さの仕切り壁がある。そこにギリシャ語とラテン語で「いかなる外国人も神殿の周囲にめぐらされた格子づくりの仕切りの壁の中に足を踏み入れてはならない。これを侵す者は死をもって罰せられる。」と書いてある。

・この「隔ての壁」は私たちの心の中にも存在する。国家、人種、肌の色、階級、宗教、文化の裂け目の間に敵意がある。どうやってこの裂け目、壁、敵意を取り除くのか？ それは、ただキリストによってのみ取り除かれる。

cp: ガラ3:28 コロ3:11 イエス様は、この敵意を取り除く道具として教会を用いる。ゆえに教会の中にこのような裂け目が存在するのを許してはならない。現に様々な和解運動が進んでいる。[例] インディアン、十字軍の道など。

・イエス様は、互いを分離していた壁を打ち壊し、ひとつのからだ(V16)とし、ひとつの家族(V19)として下さった。

※イエス様のしてくださったことから、何を学び、実践する事ができるか？

V15 「ご自分の肉において、敵意を廃棄された方」

・イエス様は平和を語っただけでなく(V17)、文字通り、自分のからだを張って、敵意と反目をうちこわすことに努めた。平和を語るだけでは十分でなく、「平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです」(マタイ 5:9)とあるように、「平和をつくる者」にならなければならない。

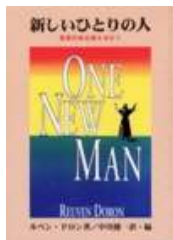
[例] 私たち日本人クリスチャンは、「雨ニモマケズ」に込められた宮沢賢治の願いを実現する者となろう。この日本で最もよく知られている詩のモデルになったと言われている人は齊藤宗次郎というクリスチャン。

(これに関するストーリーは、<http://www.icfire.com/goodall/NewFiles/extra.html> でダウンロードすることができます。)

・「新しいひとりの人」 異邦人教会と救われたユダヤ人からなる、この「新しいひとりの人」は、今実現し始めている。

●良書推薦

「新しいひとりの人-聖書の教会像を求めて-」 ルベン・ドロン著 中川健一訳 ¥1,500



エペソ書 2 章に解説されている教会の姿が鮮明に理解できるようになる好著。

目次 はじめに 第一部 和解のはじまり 第二部 イスラエル民族の物語
第三部 回復の約束 第四部 回復への苦悩 第五部 預言者への召命 結論としての願い

<http://www.harvesttime.tv/Israel/Tsunobue/4-98TB3.htm> で、一部ダウンロードできます。

V16 「敵意は十字架によって葬り去られた」

・両手を上げて私たちのために死んで下さった、イエス様の姿を忘れないようにしましょう。

縦：神と人との和解をなす主イエス様。横：人と人との和解をなす主イエス様。

・「十字架」というシンボルの不思議。当時は極刑の道具。今は首飾り。「電気イス」の首飾りはない。屈辱と敗北のシンボルのように見えていた十字架が、実は私たちのための祝福と勝利、和解をもたらしてくれるものになった。

V17 今も福音宣教を通して、平和が宣べられている。

平和はただ敵意を取り去るだけではなく、

V18 「父のみもとに近づくことができる」ようにしてくれる

・二つのグループが(「両者ともに」)父のみもとに近づくのはまず、平和を実現して下さった主イエス様による。

∴ 「主イエス様のみ名によって祈ります」と祈る。

・それから、1 つの御霊によって助けられつつ、父なる神に近づく。

V13-18 のまとめ

・キリストこそ私たちの平和。十字架によって敵意を取り去っていただいた。私たちの真中に十字架をいつも置こう。十字架をかかげよう。私たちをひとつにするのは、キリストの和解の十字架である。

例話 「パールハーバーの裏話」 真珠湾爆撃隊長淵田美都雄とジェイク・デシェイザーの和解の感動ストーリー。

<http://www.icfire.com/goodall/NewFiles/extra.html> でダウンロード可。DVDあり。

■2:19-22 神の家族と神の御住い

・V13~18 の結果どうなったか? 「こういうわけで」: 結論を出す

V19 「他国人でも寄留者でもない」「寄留者」とは、文字通りには「門の内側の他国人」。在留異国人(Alien)でない。

イエス様が造った教会とは:

① 同じ国民

② 神の家族

V12 の「あなたがた」の身分が逆転する

V12		V19
イスラエルの国から除外された	-	同じ国民
約束の契約については他国民	-	もはや他国人ではなく
神もない人たちでした	-	神の家族なのです

③ 家、建物 V20

・土台は: 使徒と預言者 — 彼らの教えに従えば大丈夫。必ず建つ。これは、旧、新約の真理のことであり、現代人の考えではない。すべてを下からささえているのはイエス様。

・礎石とは、隅のかしら石のこと。土台の二つの壁が合している「隅」の角に置かれる特に重要な土台石。これによって土台の形も角度も決ってしまう。エルサレム神殿の南の角の石は 13m !

V21 「組み合わされた」

・受け身になっている：教会を建てるのは、「あなたがた」ではなく、キリスト・イエスご自身がなさること。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます」 マタイ 16:18

V20 建てられており

V21 組み合わされた建物

〃 主にある聖なる宮となる

V22 とともに建てられ

・信者は1人1人生ける石。自分の場所におさまろう。

V22 「神の住まいとなるのです」 これは、神が最初から願っていたこと。

・旧約聖書の、最初の神から人への質問：「あなたはどこにいるのか？」（創世記 3:9）

・新約聖書の、最初の質問：「ユダヤ人の王としてお生まれになった方(=イエス・キリスト)はどこにおいでになりますか？」（マタイ 2:2）



エペソ 3 章

「あなたの務めは何ですか」 3:1-13

■3:1-13

V1 「キリスト・イエスの囚人となった私パウロ」

・実際は「ローマ皇帝の囚人」であった。しかしパウロにとっては自分は「キリスト・イエスの囚人」であった。

4:1 「主の囚人である私は～」 6:20 「私は鎖につながれて、福音のために大使の役を果たしています。」

パウロを監視していたローマ兵は「何がキリストの囚人だ！この鎖を見ろ！」と言っていたかもしれない。しかし、パウロの信仰姿勢、意識は「キリスト・イエスの囚人」。

・私たちがそうでなければならない。あなたの「獄中体験」を生かせ！パウロはそうした。カイザリヤではある程度の自由があった。使徒 24:33 キリストの奥義や救いの計画について深く考え、手紙を書く機会とした。エペソ 3:13

・マルコ 1:14 「ヨハネが捕らえられて後、イエスからガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。」

直訳：引き渡された Gr.パラデイドーミ：元来「渡す」「引き渡す」の意。ふつう「牢獄に」などのように何に引き渡すのかを示す補語がある。ここにはない。ヨハネを捕らえた官憲の背後に、神の意思と計画を見ることができる。主が捕らえられるのを許した。計画があった。良い目的があった。主が支配しておられる！パウロもそう。

● 「異邦人のために」とあるが、どのように「異邦人のために」になったのか？

e.g. ピリピ 1:12~14 福音を前進させた。

① ローマ皇帝の親衛隊(約 9000 人)の全員とその他のすべての人にパウロの投獄がキリストのゆえであることが知らされた。Cf. 使徒 28:30, 31 「～少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエスのことを教えた。」

② 兄弟たち(クリスチャン)の大多数は、主にあつて確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになった。

LB 「また、私を見て、ここにいる多くのクリスチャンは、投獄など恐れなくなりました。ともかく、彼らは耐え忍んでいる私の姿に勇気づけられ、ますます大胆に、キリスト様のことを人々に語るようになったのです。」

例：中国 文字通りの投獄、今も続いている。しかしクリスチャンは大胆に！

ここの結論：V13 ですから ～ 落胆しないように

※V2~13 「大脱線」(ヴインセント)

パウロは、1~2 章で書いたことを、もう一度確かめ、念を押しておきたいことを述べる。1~2 章で述べていることがあちこちに反響してこだましている。・V3 「奥義」・V5 「使徒と預言者たち」・V6 「ともに一つのからだに連なる」・V7 「力の働き」・V11 「永遠のご計画」・V12 神に近づくことができる

● パウロの務め

・パウロの務めは主に異邦人への伝道

ペテロの務めはユダヤ人への伝道 ガラ 2:7

・あなたの務めは何ですか。使徒、伝道者ではないかもしれないが、必ずあなたの務めがある。

V2 のためにと がいただいた、神の恵みによる の務め

① 人のため V2

・子どもたち ・自分の家族 ・「」に住んでいる人々

・ さん、という 1 人の人

② 神の恵みによる V2

・ふさわしくないが、一方的に神から与えられたもの。修業の報いではない。

ここで使われている「恵み」：人がイエス様のためにする仕事を与えられる特権のことを言う。

③ 賜物と密接な関係がある V7

・できないことを主はさせない。しかし、それをするのに「神の力の働き」が必要。

現代訳「～その働きを遂行できるように、特別な力と恵みの賜物を与えて下さった」

- ・ふるえながらであってもその務めを果たせ。【例】：ふるえながら魔女のような女性に福音を伝えた NZ 人夫婦。「私は私を強くして下さる方によってどんなことでもできるのです！」と告白しよう！人にイエス様のことを伝えるチャンスは主は下さる。その時逃さないで、自分を主にささげる。主は、能力と勇気と力、愛を下さる。
- ・V7に関してカルヴィンのコメント。「私の価値などは考えないで欲しい。私が異邦人の使徒であるのは、主がご自分の恵みから私に与えられたものであり、私の品性のゆえではなくて、主の恵みによることなのだから、と言おうとするものであろう。」

④ へり下って務めをせよ V8

・だんだんへり下るパウロ：自分の罪深さを自覚していった。それとともに恵みを自覚していった。

サウロ → パウロ（ラテン語で「小さい者」）

○数年前：I コリ 15:9「私は使徒の中では最も小さい者～」

○今：すべてのクリスチャンの間で一番小さい「一番小さな」: Gr. エラキストテロス「最も小さい者よりも更に小さい者」

○2, 3年後：「罪人のかしら」！（I テモテ 1:15）

教会の迫害者であった、自分の過去をパウロは忘れていなかった。この務めが与えられているのはただ恵み。

- ・その「一番小さな」彼が福音を「キリストの測りがたい富」と呼び、宣べ伝える。
- ・私たちも神様をぬきにしたら、小さく、何の役にも立たない。しかし、神様がそんな私たちをも恵みによって役に立つ者として用いて下さる。

V10 「天にある支配と権威とに対して、教会を通して神の豊かな知恵が示されるため」

- ・この見地から見せられないと、目先のことでやられてしまう。
- ・V9の奥義(神の救いの計画)とはV6にある3つのこと。今その奥義が、時間を超越した神のシナリオに基づいて、展開している。舞台は地球だが、天にある存在が見守っている→天使。悪霊達は攻撃するが、ついにやぶれる。
- ・この救いの計画がやがて完成する。1:10「いっさいのものがキリストにあって一つに集められる。」
- *それぞれの地域教会とその働きは小さくても、個々のクリスチャンの働きは目立たなくても、このようなスケールの大きい働きに参加させていただいている自覚を持とう。世界宣教にたずさわることの意義がここにある。

・「神の**豊かな**知恵」

Gr. ポルポイキロス 英語 "Manifold wisdom of God" 「多色の、色とりどり、多彩な」という意味。

教会もそう。あらゆる文化(国語、民族、部族)から成り立っている。

【例】：民族音楽による賛美の美しさ。世界宣教会議でのペルー音楽のグループ。その音楽の中に神様の「心の豊かさ」や「知恵の一面」や「愛(の一部)」を感じた。 e.g. 和太鼓の音に勇壮さを感じませんか？

デニス・リンゼイ(CFNI 総裁)のことば（起源論争 p.24 より）

「神様は、ご自身の無限の愛と、ご性質の一部を現すために、一人一人の人を創ってくださいました。しかも、過去においても、現在においても、将来においても、あなた以外の誰もかそれを現せないのです。各人は、ユニークであって、複製して作られた人は一人もいません。」

- ・人種も色々。例えば、黒人の音楽(ブラック・ゴスペル)を通して日本人に福音が伝えられていることも、「神の豊かな知恵」ではないだろうか。

V11 「神の永遠のご計画」

- ・神の永遠のご計画は着々と進んでいる。それは変らない。何が起きても動じる必要はない。「神の**永遠**のご計画」で、大きな安心感を覚えよう。「神の永遠のご計画」は、行きあたりばったりの急な思いつきの計画ではない！私たちは「世界の基の置かれる前からキリストのうちに選ばれている」ことを忘れないようにしよう。

・サウロ(後のパウロ)は、ステパノの処刑に加わり、その後も教会を激しく迫害した。その迫害は国外にも拡張していった。シリアのダマスコに向けて。しかし、その間も神の永遠のご計画は着々と進行しており、ついにサウロがイエス様と出会う時が来た。

∴ あきらめない！ 祈り続けよう！ 自分の務めを果たし続けよう！ 自分の知る限り、「神の永遠のご計画に沿って」歩もう！
良い祈り: 「主よ。 あなたの永遠のご計画に沿って歩ませてください。」

V12 「このキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信を持って神に近づくことができる」

・物理的に霊的に近づくだけではなく、神様の心に近づくことができるということ。これは贖われた私たちにものみあり、天使にはない特権であるようだ。

V13 **だから**、私の苦しみのことで落胆するな、とパウロは言っている。

・パウロの投獄がかえって福音を前進させたことを忘れないように。

みことばをそのまま祈る 3:14-21

■3:14-21 パウロの第2の祈り

● 3つのことを祈る —すべてのクリスチャンが毎日のように祈るべきこと—

- ① 内なる人の強められること(霊的力) —自分が導いている人(学びをしている人)のために
- ② キリストの愛を知ること
- ③ 神の充満に満たされること

・「主の祈りに次いで、聖書の中で二番目に重要な祈り」という人もあるほど重要な祈り。

V14 LB 「神様のご計画の知恵深さと広大さを思う時、私はひざをかがめてこう祈らざるを得ないのです。

・「ひざをかがめて」

聖書には「立って」「手を上げて」「ひざまづいて」などの祈りの姿勢がある。「ひざをかがめる」とは、へりくだりと神様を敬うことを表す姿勢。大いなる神様を礼拝する祈りへの導入。神様に対する全き信頼や真剣さを表す。

V15 「父の前に祈ります」

マタイ 8:9 「だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。』」

天井に向かって祈っているのではなく、わたしたちの祈りに耳を傾け、答えようとしておられる天のお父様に祈る。

・「天上と地上で 家族と呼ばれるすべてのものの名の元である父」

天上: 先に天に召された「勝利の教会」 地上: 地上の「戦う教会」

★★★とりなしの祈りの大切さ★★★

・今、私たちが主の恵みのうちに守られているのは、多くの人々のとりなしの祈りによる。

例 教会の兄姉の名を英語に訳して、NZの兄姉に伝える。名も知れない忠実なNZのクリスチャン達が祈って下さる。これは舞台裏のことが非常に大切。 ・らい園のおばあちゃんのとりなしの祈り。

1. 内なる人が強められること (V16)

・「どうか父がその栄光の豊かさに従い」 LB 「その栄光に満ちた無限の富の中から～」

・パウロの愛用語: 「豊かさ」 1:7, 18, 2:7, 3:8

今日も明日もいつまでも注がれる主の豊かさ。それが私たちに救い、保ち、すべての必要を満たす。

・パウロは、「私たちの成長度とか達成度に従って」と祈ったのではなく、

「御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように」と祈った。

外なる人のためよりも、まず内なる人のために祈る。

cp: 「ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」IIコリント 4:16

・内なる人が強ければ、外なる人の苦しみに耐えられる。

「人の心は病苦をも忍ぶ。しかし、ひしがれた心にだれが耐えるだろうか。」箴言 18:14

「病苦」とは、外的なものが失われた例。他に、富を失う「貧乏」、職を失う「失職」など色々あるが、内なる人が強くされていれば、耐えられる。 cp: ヨブ 1:20~21, 2:8~10 パウロ IIコリント 11:23~33

・内なる人の状態が外なる人に反映される。ゆえに、内なる人を強くしていただく必要はより大きい。

・「強くする」タフにする、忍耐強くする、エネルギーがある、行動する、抵抗する、などの意味がある。

誘惑、罪、悲しみ、死、困難、試練、自己中心、世俗化、病気、苦しみ、などの様々な問題に勝利し、それらを征服するために強くされる必要がある。 [例] まばたきの詩人水野源三さん、星野富弘さん、三浦綾子さん、三橋萬利牧師 他多数

・だからパウロは内なる人のために祈る。 私たちも、互いの内なる人のために祈ろう。

V17 「こうしてキリストが、あなたがたの信仰によってあなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように」

※聖書に質問が3294出てくる。(旧約 2,272 / 新約 1,022)

・旧約聖書に出てくる、神から人への最初の質問。 「あなたはどこにいるのか」(創世記3:9)

・新約聖書最初の質問 マタイ 2:2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方(=イエス・キリスト)はどこにおいでになりますか？」

これは、すべての人間に聞かれる質問

「私の心のうちに住んでいて下さいます！」(V17)と答えられれば幸い。

[例] 死に行く若いクリスチャン女性に「しあわせですか？」と聞いた。答えは、“YES!”

① 天を指して、そこにキリストを持っているから(コロ 3:1~4)

② 聖書を指して、そこにキリストを持っているから(ルカ 24:27)

③ 心を指して、そこにキリストを持っているから(エペ 3:17)

・パウロはここで、エペソの信者の心にキリストが住んでいないからこう祈るのではない。「信仰によって」とある通り、信じる者の心にイエス様が御霊によってすでに宿っておられる！ →「キリストの内住」

・V.17 の「住んでいて」(Gr. カトイケオー)は、住みつく、腰を下ろして定住することを意味する。 2:19 の「寄留者」に対して、本当の家人を表す。つまり、パウロが祈っているのは、すでにキリストは心に宿っておられるけど、キリストが真に心に定住(永住)し、心の王座について下さることを祈っている。

「いそろう」か「世帯主」かの違い。「間借り人」か「家長」かの違い。英語では、resident か president かの違い。

パウロは、キリストを意識して、生活出来ることを祈っている。イエス様が家長になっていただくようにと祈っている。イエス様が “at home” (カトイケオーの一つの意味。Zodhiates)に感じる事ができるように。

2. キリストの愛を知る (V17-19)

・「愛に根ざし」(植物のように)自分の信仰の根をキリストの愛におろす。

・「愛に基礎を置いている」(建物の土台のように)自分の信仰生活という建物をキリストの愛の上に建てる。

LB 「どうか、この上なくすばらしい神様の愛という土壤に、あなたがたが深く根を張れますように。」

・「人知をはるかに越えたキリストの愛を知る事ができますように」 ヨブ 11:7~9によればこれは、「無理な注文」。

LB 「身をもって経験できるように」→互いのためにこれを祈る必要がある。 [例]

I Love You Mike!

(イエス様の愛の)広、長、高、深さがどれほどであるかを理解する力を持つ事が出来るように、という祈り。

・「理解する力」の本来の意味は、「敵を捕らえる」「つかまえる」。つまり、本当に自分のものとして把握すること。これは啓示によってしか得られない。

・知る方法は、「すべての聖徒とともに」

多くの場合、人を通してキリストの愛を知る。[例]: 豚井のチカラ(<http://www.icfire.com/goodall/NewFiles/emotionalneeds/part3.pdf>)

又、自ら人を愛することによって、愛を知らされる。互いに愛し合おう。

・V16~21 の力、愛、満たしが欲しいと思えば、神の家族である教会の兄姉と生き生きした関係(交わり、かかわり)

を続けることが大事。なぜなら、「ひとりの聖徒で」愛は知る事ができないから。イエス様の愛についての体験と知識は「すべての聖徒とともに」共有することであるから。

●●●「すべての聖徒とともに」キリストの愛を知ることの祝福●●●

- ① 誤り、いつわりから守られる。
- ② 断片的な知識、体験に留まらない。ひとりよがりになることから守られる。
- ③ 神の愛についての体験と知識を共有できる。この体験と知識は広い！「癒されて栄光を現す人」と「癒されずも栄光を現す人」の体験と知識。

「いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」ヘブル 10:24,25

広さ：世界のすべての民に及ぶ。あらゆる階層に、あらゆる部族に。地の果て日本にも及んだ！

長さ：私たちが悔い改めて信じるまで使った愛。今も待っている愛。Ⅱペテ 3:9, 3:15

高さ：いと高き方が、最も低く、人よりもへり下った、見返りを求めない、気高い愛を現してくださった。

深さ：私たちの罪、悩み、絶望の淵よりも深く届く愛。

例 1990年代に起こった「トロント・ブlessing」は、「The Father's Blessing」(御父の祝福)と呼ばれた。それはまさに、この祈りに対する主の答え。

3. 満たされますように (V19)

・これは、高～い目標。

・新共同訳：「そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように」

新共同訳「ついには」新改訳「にまで」進歩発展的なこと。一夜にしてなることではない。

・「神になる」ということでもない。神の祝福の受取人になるということ。

・この、高～い目標を仰ぎながら、パウロと共に祈り続けよう！ 意味を完全に理解できなくても、みことばをそのまま祈ろう。

V20, 21 結論：祈りの励ましと神が答えて下さるといふ信仰を与えられる。

・これは、頌栄(doxology) → 「栄光」(ドクサ)を語る「言葉」(ロゴス)という意味。「神に栄光があるように！」という願望を表す言葉。「いと高き所に、栄光が神にあるように」(ルカ 2:14)は、大頌栄と呼ばれる。

・「越えて豊かに」 Gr. 「ヒュペレクペリツスー」 三重の合成語。

ペリツスー：必要以上、余分、エク：それ以上、ヒュペル：超過して、という念の入れよう。神に対するパウロの信頼の大きさが伝わってくる！ 私たちは、このような神様に祈っているのだ。我々の祈りの弱さ、乏しさ、知識の狭さ、貧しさはこの神の恵み深さを制約しない！

・「私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に」

★★★「どんなことでも、神にはできるのです」★★★

- よく言っておくが、神は、こんな石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことができになるのです。ルカ3:8
- 神には約束されたことを成就する力があることを強く信じました。ローマ4:21
- 神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。Ⅱコリント9:8
- 私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方 エペソ3:20
- キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。ピリピ3:21

- 私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。Ⅱテモテ1:12
- したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。ヘブル7:25
- 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。ヘブル11:19
- あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方 ユダ24

エペソ 4 章

「からだはひとつ」 4:1-6

■4:1-3 御霊の一致を保つ

※エペソの概略を復習しよう。

1, 2, 3 章で、私たちイエス・キリストを信じる者が救われた事によって、キリストと共に天のところにすわっている事をしっかりと教えられる。**4, 5 章**では、救われてキリストと共に天のところにすわっているのだから、それにふさわしく歩みなさい、ということをお教えされる。**6章10節以降**で、このクリスチャンの歩みを喜ばない敵であるサタンが攻めてくるので、それに対抗するためにしっかり立って神の武具をつけるべき事を教えられる。

・4:1~6:9の鍵となることばは「歩む」。歩むことは人間の最も基本的な動作。生きていることの象徴。

「歩む」 ① 召しにふさわしく歩みなさい(4:1)

② 異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。(4:17)

③ 愛のうちに歩みなさい。(5:2)

④ 光の子どもらしく歩みなさい。(5:8)

⑤ 賢い人のように歩みなさい。(5:15)

V3 「御霊の一致を熱心に保ちなさい」

・一致は聖霊様の大切な役割のひとつ。「一致をつくり出さなさい」ではない。すでに私たちに与えられている。

「御霊の一致を保ちなさい」と言われている。御霊の一致を維持するのが私たちの務め。

・神様は、個々の教会がそれぞれ一致することを望んでおり、又、教会全体が一致することを望んでおられる。この一致があるならば、神の民に安心感や勝利の確信が与えられる。

■4:4-6 「7つの一致のきずな」

なぜ一致があるのか？ 「7つの一致のきずな」

① からだはひとつ

・キリストのからだなる教会はひとつしかない。Q:「札幌に教会はいくつ？」A:「ひとつ」

・天国に行ったら、___派、___派という「壁」はない。

・からだの部分はたくさんある(V7)。しかし「からだはひとつ」多様性の中にも不思議な一致がある。

② 御霊はひとつ

・イエス様を信じている他の人のうちにおられる御霊と私のうちにおられる御霊は同じ方。「聖霊体験」は違っても、同じ聖霊であることを忘れるな。背景や性格が違っても、同じ御霊を心にいただいているから一致できる。

③ 望みはひとつ

・1:18「召しのもたらした望み」神様に声をかけられたことの幸い。私たちの望み：再臨、キリストと同じ姿に変えられること、天国などなど。・「こうして夕があり、朝があった」信じる者は永遠の朝に向っている。

④ 主はひとつ

・私たちの仕えている方は同じ。我々の唯一の所有者、支配者、主権者はイエス様。

「私たちは~唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものはこの主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。」 I コリント8:6b

⑤ 信仰はひとつ

・西洋人の信仰があり、東洋人の信仰があるのでない。救いに至る信仰は、主がひとつであるように、ひとつしかない。「イエス様は生ける神の御子キリストです。」 プロテスタントの信仰簡条は95%同じである。

⑥ バプテスマはひとつ

・主を信じることのあらわれであるバプテスマもひとつ。「キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たち」ローマ 6:3

⑦ 父なる神はひとつ

「すべてのものの上にあり(支配)、すべてのものを貫き(臨在)、すべてのものの中におられる(内住)父なる神はひとつ。クリスチャンは同じ天の父を持っているのだから、神の家族である。どうりで一致できるはず。

●隣のクリスチャンと握手して、「私たちって、こんなに共通点があるんだね！」と言って下さい。

・では、どのように「御霊の一致」を保つのか。まず、生まれたままの私たち(肉の私たち)は一致を保てない。ガラ 5:14~20。御霊によって導かれて歩まなければ絶対に一致は保てない。ガラ 5:22, 23

一致を保つために養うべき四つの美德 (V2、3)

① 謙遜

・謙遜は自己中心の反対。「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。」ピリピ 2:3 ローマ 12:10 「尊敬をもって互いに人を自分より〜」

② 柔和

・柔和とは、のんき、弱々しいという意味ではない。「普段は優しいが、いざとなると強い」のが柔和。英語では、Gentleness。「すなお」ヤコ 1:21 とも訳される。衝動、本能を抑えることができること。

③ 寛容

・私たちに對する主の忍耐や寛容を深く知るべきである。そうすれば他の人に同じ態度を取ることが出来る。

・Gr. マクロスユミア: マクロス(長い)と thymos(怒り)からなる合成語。特に神がわれわれ、かたくなな人間に對して示された忍耐としての寛容を示すのに用いられる語。復讐する力があるのに、それを使わないこと。行動に出る前に自分をおさえること。物事に対する忍耐より、他の人に対する忍耐を現すのに使う語。英語”Long-suffering”

④ 愛をもって互いに忍び合う

・「愛はバラの花を見て、トゲを見ない。」 ・互いを「認めること」は「言葉を忍ぶこと」

・「忍び合い」: 特に一緒に生活しにくいような人に対する態度。寛容とほとんど同じ意味。しかしこの事を、冷たく、無礼に「ガマン」するのではなく、「愛をもって」する。 「赦すはよし。忘るるはなおよし」 R.プラウニング

例 「祈りのクリスティ」

クリスティ・ウィルソンという人は、「祈りのクリスティ」というニックネームを持っていました。だれをつかまえても「祈ろう」と言って祈るので、そんなふうと呼ばれたのですが、彼は祈らずに席を立ったことがありませんでした。だれかと話していて、その友人がだれかのことを悪く言ったりすると、「君。一緒にその友人のために祈ろう」と言って祈りました。初めはうるさがられ、嫌がられるのに、いつのまにか、だれにも好かれる人になってしまうのです。彼はのちにアフニガスタンに宣教師として渡り、アメリカの大統領にまで、アフガニスタンにはウィルソンがいる、と頼りにされるようになりました。

・詩篇 133 に、一致の美しい姿が描かれている。

V1 美しく、楽しい一致の姿。

V2 油: 甘い香りの油をオリーブ油にまぜて作る。この香りが拡がる。においが先に行く。人々がにおいを楽しむ。

V3 露: 雨の少ないヘルモンに露は生命維持に必要。リフレッシュする。実を結ぶ。

「主がそこ(一致のあるところ)にとこしえのいのちの祝福を命じられた」! 一致をもって、平和に生活する事がいつまでも続くのが天国だ。地上での私たちクリスチャンの一致を見るこの世の人々はそこに引き寄せられて来て、永遠の命に入れられる!

「キリストの賜物」 4:7-11

■4:7-11

V7 「しかし」 からだはひとつだが、からだの器官とその賜物はひとつじゃない。多様性がある。

- ・「**私たちはひとりひとり**」: 必ずひとりひとりに賜物が与えられている。どんな人であろうと。
- ・賜物があるのは牧師や指導者だけでない。ひとりひとりに与えられている。指導者は導いている人の賜物を発見し、用いるよう助けるべき。
- ・「**キリストの賜物の量りに従って**」 賜物に関して大事なものは、活用すること。賜物が大きいか小さいかが問題ではない。忠実に用いることが大事。「私の賜物をキリストのからだを建てあげ、強めるために用いてください」と祈れ!
- ・賜物の活用
 - ① 用いる ローマ 12:6a NIV “use it” I ペテ 4:10 「その賜物を用いて」
 - ② 管理する I ペテ 4:10
 - ③ 軽んじてはいけない I テモテ 4:14
 - ④ 燃え立させる II テモテ 1:6
 - ⑤ 訓練する Prv.22:6
- ・「あなたがどういう者であるかは、神からあなたへの賜物(贈り物)である。あなたが自分をどう仕上げて行くのが、あなたから神への賜物(贈り物)である。」

“What you are is God’s gift to you. What you make of yourself is your gift to God.”
- ・「**恵みを与えられました**」パウロは賜物を恵みと呼んでいる。(3:7, 8でも)

主から与えられた恵みを用いて、私たちが恵まれたのと同じように、他の人に恵みを与えるため。この賜物は神から直接与えられた。人からとか、教会の都合、方針によって与えられたのではない。与えられた賜物の分量に応じて、各自に必要な恵みが与えられている。
- ※二重の意味で私たちはキリストを与えられている
 - ① 救いのため 「神は実に、そのひとり子をお与えになったほどに～」ヨハ 3:16

「ことばに現せないほどの賜物のゆえに、神に感謝します。」 II コリ 9:15

この賜物はすべての信者に全く共通に与えられている。
 - ② 奉仕のために

この賜物はすべての信者に共通ではない。神はご自分の知恵によって、ある分量をひとりひとりに与えた。「救いの恵みは全員に同様であるが、個々の信者への天賦の才は十人十色なのである」レンスキー
- V8 ここに描かれている姿は、戦いに勝った王が、部下や国民に戦利品を分け与えるというもの。

ダビデ: I サム 30:24, 25 詩篇 68:18
- ・イエス様が、すべての敵に勝利して高い所(天)に上られた時、多くの捕虜(イエス様がとりこにして教会に与えた様々な人々のこと。あなたも教会に与えられた賜物なのだ。)を引き連れ、神の民に賜物(霊の賜物も、人々も)を分け与えられた。
- V9 地の低い所: ① ハデス ② 墓の意味もあるが:

イエス様は地上での生涯を歩まれたので、私たちに必要な賜物が何であるか、どのように用いるかを体験し、実践し、模範を残して下さった。ただ天から賜物を下したのではない。

(※イエス様は、異言と異言の解き明かし以外のすべての賜物を用いた。)
- V10 「すべてのものを満たすために」あらゆる状況で、ご自分の民の必要に応じて、霊的、肉体的、物質的賜物をあふれるほどに与え、満たして下さる。賜物と言うものは、イエス・キリストの権威の下で用いられるべき。エペソ 1:10の神の究極のご計画を忘れないようにしましょう。
- V11 人としての教会への賜物のカタログ ・V8にある通り、キリストが教会に与えた(今も与える)人としての賜物。

・「人としての賜物」は他にもある。例えば、「助ける者」、「治める者」、「勧めをする人」、「分け与える人」等々
- 使徒** 「遣わされた者」という意味。
 - ・福音が宣べ伝えられていない新しい地域に福音を宣べ伝え、教会を確立する人。
 - ・宣べ伝えた福音を確かなものとするしるしと不思議が伴う人。
 - ・預言者とともに教会の「土台」(2:20)と呼ばれている。

- ・12使徒以外にも「使徒」と呼ばれた者がいた。全部で23人(Dake)。召天(4:8)後にキリストが教会に使徒を与えている点に注意せよ。パウロとバルナバは、始めは、「預言者や教師」(使徒 13:1)と呼ばれたが、後に使徒と呼ばれている。(14:4、14)
- ・教会史でも使徒と呼ばれた人がいる。例：ロバート・モリソン(1782～1839)「ビルマへの使徒」と呼ばれた。
- ・新約聖書中も現在も使徒的働きをしている人は大勢いる。

預言者

- ・使徒とともに教会の土台を据える働きにかかわる。(2:20)→この土台は今も大きくなっている。
- ・特定の状況に関して神のみこころを教会に語る。
- ・使徒の働きにでてくるが、特別視されていないことに注意。
- ・複数で巡回していた。「預言者たち」使徒 11:27) 地方教会に滞在する場合もあった。孤立していなかった(O.T.の預言者とは違う。)

伝道者

- ・Gr.「良いことを伝える者」 バルバロ訳「福音者」
- ・救いのメッセージを未信者に宣べ伝えて、人々をキリストへ導く賜物のある人。
- ・具体例：ピリポ 使徒 8章 現代の例：滝元明師、ビリー・グラハム師

牧師また教師

- ・救われた人々(羊の群)を導き、養い、守る人。
- ・「牧師」 Gr: poimen NT 中 16回。1回だけ牧師と訳され、他15回は「羊飼い」。

●伝道者と牧師・教師の対比

	伝道者	牧師・教師
役割:	○ 産婦人科医 ・子どもが生まれるのを助ける	○ 小児科医 ・産まれた子どもをケアする
方法:	○ 罪人のいる所に行く ・来るのを待っていない	○ 聖徒(クリスチャン)のいるところに行く
メッセージ:	○ 福音(イエスの生、死、復活)を語る	○ 「神のご計画の全体を」(Acts20:27)を語る
目的:	○ 人々を救いに導く	○ 救われた人の信仰を建て上げ、成長させる

・これらの働き人が教会に起こされるように祈らなければならない。CFNJ 聖書学院が北海道に来たことは祈りの答え。マックス・ミドルトン師が “Lord, send teachers to Hokkaido.”と祈っていたのを思い出す。

「キリストのからだを建てあげる」 4:12-16

■4:12-16

1. 成長の方法 その1

V12 4:11の人々(教役者)が聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせる。

- ・「整えて」 Gr.語源：結合する、縫い合わせる、組織する。

教役者が、聖徒たちを「組み合わせ、結び合わせる。」これによって、①交わり(コイノニア 使徒 2:42)や兄弟愛(フィラデルフィア Iテサ 4:9)を実践できる場ができる。②教会の中の自分の位置がわかる

- ・「奉仕の働き」 Gr. デiakonia。NT 中「デiakonia」は「救助」、「奉仕」、「ささえる」と訳される。給仕の仕事。本来、給仕は主人や家族が食事を楽しく食べられるように仕える仕事。人を喜ばせる仕事。

教役者の仕事は、人のため。グリコ夫妻の言葉：「物にではなく、人に投資したい。」

2. 成長の方法 その2

V16 神の側：「キリストによって」成長の源はイエス様。指示は頭^{かしら}なるイエス様から。

人の側：「ひとつひとつの部分がその力量にふさわしく働く力によって」クリスチャンひとりひとりに神様がくださった力量というものがある。それをういて教会の成長に貢献する事ができる。

例 ネヘミヤ 3 章に見る、エルサレムの城壁再建。ひとりひとりがその力量にふさわしく働いている良い例。

V10「エダヤ」：「自分の家の面するところを修理した」 V28 祭司たちも自分の家に面する所を。

V12「シャルム」：自分の娘たちと一緒に修理した。うるわしい姿。家族で主の働きができることは素晴らしい。

V13「ハヌンとザノアハの住民」：1000 キュビト(=440m)を修理した。すごい長さ。これも力量にふさわしく働いた結果。

V5 悪い例。身分の高い人たち。工事に協力しなかった。1 タラントを土の中に埋めた人は、主人に「悪いなまけ者のしもべだ」と言われ、タラントを取り上げられ、「外の暗闇」に放り出された。

V20「熱心に修理した」 V21 コツは「こつこつ」修理したか？

結果はどうか？ ネヘミヤ 6:15 たった 52 日で完成した！すばらしい。しかし、ハヌンがエダヤよりえらいわけではない。力量にふさわしく働いた結果である。例：75 万人教会を牧会するチョー・ヨンギ牧師の働きはすごい。しかしこれも力量にふさわしく働いた結果。そのまままねしてもダメ。私たちは、互いに比較し、批判し合うために存在するのではない。

・「備えられたあらゆる結び目」「結び目」という役割もある。「しっかりと組み合わせられ、結び合わされる」ことによって教会は成長する。

・「愛のうちに建てられる」愛がなければ建たない。成長するために愛が必要。愛が一番の成長剤。

例 馬の競技で、一位の馬は 2000kg 引き、二位の馬は 1800kg 引いた。ところが、二頭の馬が一緒に結び合わされて引くと、5400kg 引けた。これは、それぞれの馬の力の合計よりも、1600kg も多い結果。クリスチャンも愛のうちに協力すると、個人の力の合計よりももっとすばらしい結果を出すことができる。

3. 成長の目標

V13「キリストの満ち満ちた身たけにまで達するため」 3:19 を思い出す。私たちの目標をここに持つべき。

V15「かしらなるキリストに達することができるため」

・「ついに」 V13 時間と労力がかかる。しかし、必ず達する。今、それを待望しよう。成長の刺激、目標にしよう。

・「信仰の一致と神の御子に関する知識の一致」ここで言う「知識」は、教理的な事よりも、個人や共同体として、イエス様との交わりを通して主を親密に知ることを言う。

V4~6 の一致はすでにある。今は「信仰の一致と神の御子に関する知識の一致」に向かって進んでいる。

「今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知るようになります。」I コリ 13:12

福音がどのように宣べ伝えられているか	ことば	しるし(不思議)	良い行い
何を宣べ伝えているか	神の真理	神の力	神の愛(あわれみ)
方法	伝道	奇跡(超自然)	社会的関心
教会の流れ	福音派	ペンテコステ・カリスマ派	社会派
① ローマ 15:18, 19	「ことば」	「しるしと不思議」	「行い」
② 使徒 10:36~38	「平和を宣べ伝え」	「いやされた」	「良いわざをなし」
③ ルカ 4:18~19	「福音を伝える」	「盲人の目が開かれる」	「しいたげられている人々を自由にし」

●イエス様は、このすべてを用いて福音を宣べ伝えた。今日の教会もこれに向かって成長している。V13 に「私たちがみな」とある。日本の全教会が成長することを祈ろう。

・成長しなければならない理由

V14 「私たちがもはや、子どもではなくて」 子どもの特徴は、すなおに信じるが、同時にだまされやすいこと。

・「人の悪巧み」 Gr. クベイヤ「サイコロばくちをする」これが、イカサマやゴマカシに通ずるところから「悪巧み」という意味になった。

・「人をあざむく悪賢い策略」例 統一教会などの様々な異端、カルト。巧妙な方法で人をだます。

・「教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがないように」しっかりと立つ大人になる必要がある。

4. 成長のしるし

V15 「愛をもって真理を語り」

「むしろ、誠実に語り、誠実にふるまい、誠実に生きて、常に真理に従うのを喜び、あらゆる点で、キリスト様(教会の頭なる方)にますます似た者となるのです。」 LB V15

・イエス様は、「恵みとまことに満ちておられた」 ヨハ 1:14。福音の真理は常に愛を伴う。

「新しい人を着る」 4:17-24

■4:17-24 クリスチャン生活のオリエンテーション

・V17~24は、クリスチャン生活のオリエンテーション。方向付け。新しい会社や学校などに入ると、そこでの新しい生活の仕方を教えられる。それと同じように、ここでは、クリスチャン生活の基本的・原則的なことを教える。具体的なハウツーはV25以降で教える。

●V17~19では、してはならない歩み(生活)を否定的に説明。

●V20~24では、すべき生活を肯定的・積極的に説明。

V17 「異邦人」：かつての私たち。むなしい心(思い)で歩んでいる。いつも「何かいいことないかい？」的に過ごす。

V18 次のステップ。知性が暗くなる。だから 1:18にあるように、私たちクリスチャンも「心の目がはっきり見えるようになる」必要がいつもある。インテリだけど、愚か者になってしまう。

・「神のいのちから遠くはなれない」ためには、罪が示された時には、素直に悔い改めよう。

V19 「道徳的に無感覚」 Gr. アパルゲオー「痛みを感じなくなる」という意味。

・「好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いをむさぼる」現代社会の姿。V18によれば、原因は、「むなしい心」。私たちはこの空しい心を主によって満たしていただいた。その後も満たしてもらう必要があればそれを願おう！

V20 「しかし、あなたがたはキリストのことをこのように学びませんでした」

・イエス様は救い主であるだけでなく、私たちの模範者である。だからイエス様から学ぼう。※学ぶは「まねぶ」から。

V21 「本当にあなたがたがキリストに聞き、キリストにあって教えられているのなら」

・「キリストについて」ではない。私たちは、「神学学」や、「キリスト論論」を学んでいるのではない。

・「キリストに聞く」者となろう。イエス様から聞くものとなろう。

・「まさしく真理はイエスにある」このように書簡で「イエス」の名前が使われるのは珍しい。ここではイエス様のことを、歴史的な名称で呼んでいる。つまり、具体的な生活上の模範としてイエス様を見なさい、ということ。イエス様は、生きた真理の教科書である！

・本当に「キリストに聞く」のなら、救われる事だけを学ぶのではなく、クリスチャン生活をどのように具体的に送るかも学ぶ。そして生活が必ず変わっていく。

・「WWJD」 What would Jesus do? イエス様だったら、この場合どうするだろうか？

「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは私たちからの使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。」 I テサ 2:13

V22 「その教えとは」何か

◎ 古い人は、脱ぎ捨てる

Q: 服を脱いだことのある人はいると思いますが、脱ぎ捨てたことはありますか？ 古い人を脱いで置いておくのではなく、脱いで捨てる！ 又着てはいけません。以前の生活をやめる、捨てるということ。バプテスマにおいて、古い人の葬りを示した。今度は、それを实际的に現す。ガラ 5:19~21。

- ・「人を欺く情欲」 情欲は、私たちが惑わし、だます。エバも悪魔に惑わされた。私たちは、欺かれるべきではなく、裏を見、あばかなければならない。エペソ 5:11~13 「明るみに出す」
- ・古い人を脱ぎ捨てるだけではダメ。

◎ **新しい人は、身に着る**

- ・救われた時、新しい性質をいただいた。そういう意味ではもう着ている。でも、着こなす必要がある。例： 中学 1 年生の学生服。最初は着こなしていない。徐々に着こなす。新しい服に関してもそう。着こなし方は 4:25 以下にある。
- ・新しい人の特徴は、きれい！ V24 「真理に基づく聖をもって神にかたどり造り出された」 私たちの「新しい服」は、Made in Heaven！ こんな素晴らしい服はない！
- ・具体的にどんな服？ → クリスマンの新しい性質と生活。 4:25~32 から：

<u>脱ぎ捨てるもの</u>		<u>身につけるもの</u>	
V25	偽り	真実	
V26	怒り	赦し合い	V32
V28	盗み	正しい仕事 → 施し	
V29	悪いことば	人の徳を養うのに後立つことば	
V31	無慈悲、憤り	親切、心のやさしさ	V32

「身に着るべきもの、脱ぎ捨てるべきもの」 4:25-32

■ 4:25-32

- V25 「偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい」 ・V22 の「脱ぎ捨て」と V25 の「捨て」は同じ動詞。
「私たちは互いに体の一部分なのですから、ごまかし合いをやめ、真実を語りなさい。うそをつき合えば、自分自身を傷つけることになるのです。」 LB
- ・主は偽り(わかりやすく言うと、うそをつくこと、ごまかすこと)を憎む。 詩篇 5:6、箴言 6:17, 19。うそをつく者(悔い改めない者)は天国に入れず、火と硫黄の燃える池に入れられる。
- ・黙示録にある偽りの発展 ① 21:8 偽りを言う → ② 21:27 偽りを行う → ③ 22:15 好んで偽りを行う。
- ・イエス・キリストにあつて新しい者とされた私たちは、偽りを捨て、真実を語るべき。なぜ？ → 「私たちはからだの一部として互いにそれぞれのものだからです」 お互いに心を開いて、信頼し合うために、真実を語り合おう。

● 異邦人とクリスマンの歩みの対比 (八つの悪と徳の対比)

(1) 4:2	偽り	対	真理
(2) 4:26, 27	憤り	対	自制
(3) 4:28	盗み	対	気前の良さ
(4) 4:29-30	悪いことば	対	人の徳を養う
(5) 4:31-5:2	悪意	対	愛
(6) 5:3-14	汚れ	対	純潔
(7) 5:15-17	無分別	対	知恵
(8) 5:18-20	放蕩	対	喜び

V26 「怒っても、罪を犯してはなりません」

- ・聖書は、怒りそのものを悪とは呼んでいない。正しい怒りもある。「義憤」しかし、それは、恨みに非常に変わりやすいことを忘れないようにしよう。
- ・「怒っても、罪を犯さない」ためには、どうするのか？ → 「日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません」

現代訳「激怒したまま、いつまでもそうした状態でいてはいけません。」

・怒りに対するひとつの対処の仕方 → 「あなたがたは怒っても、罪を犯してはならない。床の上で静かに自分の心に語りなさい。セラ」 口語訳 詩篇4:4

V27 「悪魔に機会を与えないようにしなさい」 LB 「腹を立てていると、悪魔につけ込むすきを与える(からです)」

・「悪魔」 Gr. デイアボロス「中傷する者」

・「機会」 Gr. トポス「場所」、「足場」、「足がかり」 怒りは悪魔に強い足場を与える。

V28 「盗み」：当時の奴隷たちは、こそどろを生活の一部と見ていた。「みんなやっている」と思っていただろう。今の世でもある。しかし、クリスチャンになったら、もっとすばらしい生き方がある。

・「自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい」 → クリスチャンこそ、一生懸命まじめに働くべき。

・お金を得るのは、ただ好きなものを買うためではない。 → 「困っている人に施しをするため」

・経済的に祝福されている日本に与えられている責任を考えよ。 [例] 60万円の献金で海南島に4つの教会堂が建った！ 色々なことができる。オススメ：クリスチャンの孤児院の「里親」になる。

※盗みの正反対は何？ 与えること！ これを心からするという事は、新しくされた心の確かな証拠！

V29 「悪いことば」

・口は何のために与えられているかを考えよ。 → 神に感謝、賛美するため。人を建て上げるため。

・「人の徳を養う」 人の必要に応じてその人を立てあげる

・「聞く人に恵みを与えなさい」 聞く人が好感をもち、魅力を感じずような言葉を話す。

[例] 南イングランドのバーンステイブルにあった R・C・チャップマンの家庭について次のように記録されている。「食卓は大いに快活さで満たされていました。知恵ある言葉、優美な言葉が常に聞けました。しかし下品な話題に陥るような会話の余地はありませんでした。またそこにはない人の陰口を言わないことが、その家庭の規則でした。この規則を少しでも破るならば、ただちに厳しい、しかし愛情ある忠告受けました。」

V30 「神の聖霊を悲しませてはいけません」 LB 「聖霊様を悲しませるような生き方をしてはいけません」

・聖霊様は、ご人格をもったお方。私たちの生き方によって傷つく。聖霊様に対して、敏感に歩もう。

・「贖いの日」 私たちの救いが完成する日がある！ 「贖いが近づいたのです」 ルカ 21:28。ローマ 8:23 参照。

・「証印」 あがないの日には必ず救われる、という証印！ パスポートにビザのスタンプがあれば入国できるのと同じように。

V31 V25-30 のまとめ

・悪意が根であり、その根から5つの毒の花が咲く。無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしり(陰口のこと)を捨て去ろう！

V32 「親切」「心のやさしい人」「赦し合うこと」

・これは、新しくされた私たちクリスチャンのもつべき資質。V32 は、すべての人間関係の回復、またカウンセリングに最適の方法である。

エペソ 5 章

「愛と光のうちに歩む」 5:1-10

5 章の概略

- 「愛のうちに歩む」 5:1~2
- 「光の子どもらしく歩む」 5:3~14
- 「聖い人のように歩む」 5:15~21

■5:1-2 愛のうちに歩む

・「愛されている子どもらしく」

愛されることを知っている者が、人を愛することができる。だから主の愛を知ることが大切。Cp:3:18, 19 の祈り。

・私たちは、天父に愛されている者たち。

- 私たちは、天父に「おんぶ」(申命記 33:12)と「だっこ」(33:27)されている。
- 「受け入れられている」(エペソ 1:6) 私たちの根本的 necessary
- 聖書のどのページを開いても、天父の愛がある。そう見えないページでも。

● 「神にならう者となりなさい」: 具体的にどのように「神にならう者」となるのか。

- | | |
|-----------------------|------|
| ① 愛のうちに歩むことによって | V2 |
| ② きよく歩むことによって | V3 |
| ③ ことばをきよくすることによって | V4 |
| ④ 神様のおごそかな警告を知ることによって | V5,6 |
| ⑤ 汚れた生活から離れることによって | V7 |

まず見習う(まねする、イミテートする)べきことは「愛」

① 愛のうちに歩む

A. 兄弟への愛 Iヨハネ 3:1, 14-18

B. この世の人への愛

考えてみると、5:2 「キリストもあなたがたを愛して～」の愛は救われてからきよめられてきた私たちに対するものではない。それはむしろ、私たちが、① 弱かった時 ② まだ罪人であった時 ③ 敵であった時 (ロマ 5:6, 8, 10)に示されたもの。

「この聖書の箇所は、決して律法の焼き直しではありません。パウロは、『もう、皆さんの中に、聖霊のいのちが働いておられるので、アガペーがあります。皆さんがその気になれば、内側からのアガペーによって、新しい生活はできるのです。』と教えているのです。」 聖書教師 マルコム・スミス

例 「アホ忠」を受け入れた升崎外彦 (<http://www.icfire.com/goodall/NewFiles/OkoboreMessages/love38.html>)

■5:3-14 光の子どもらしく歩む

・「聖徒にふさわしく」 エペソ1:1にある通り、私たちは「聖徒」。「聖なる者たち」(新共同訳)

② きよく歩む (V3)

V3 「不品行 (Gr. ポルネイア)、汚れ、むさぼり」 聖徒は、これらのことを口にさえずべきでない。

③ ことばをきよくする (V4)

V4 「みだらなこと、愚かな話、下品な冗談」 これらは全部口からあふれることば

・「卑わいなことば」(新共同訳)。この当ても今も、これらのことが余りに一般的であったので、クリスチャンも何とも思わなくなる危険がある。→ V14 「眠っている人よ。目をさませ！」

・「むしろ、感謝しなさい。」 ⇒ 感謝する事は誘惑に勝つ一つの力強い方法。みだらな話の代わりに感謝する。主の恵みを思い、感謝し、賛美する。→ 5:20 ☆すばらしい 力強いことば「ハレルヤ。主よ感謝します！」

④ 神様のおごそかな警告を知る

A. 汚れた者は御国を相続できない

V5 「偶像礼拝者」とは、むさぼる者。神様よりも何か他のものを求める者。神様の占めるべき位置に他のものを置くこと。→ 自己吟味せよ。

・「～相続できません。」神様より、他のものを求めるのだから、自分の意志で神の国を相続しない事を選ぶ。

→ I コリント 6:9～11 (V11 の「しかし」!)

V6 「むなしいことばに、だまされてはいけません」

B. だます者がいる

C. 神の怒りが下る

「こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです」

⑤ 汚れた生活から離れる (V7)

V7 「彼らの仲間になってはいけません」 未信者と交わるな、という意味ではない。イエス様は「罪人」と交わり、悔い改めに導いた。(ルカ 5:30-32) 上記のことを受け入れている人々の生き方を認めたり、まねしたりしない。こちらが感化される危険を忘れてはいけな、ということ。「朱に交われれば赤くなる」→ I コリ 15:33 「友達が悪ければ～良い習慣が失われます。」 「主に交われれば白くなる」

■5:8-14 光の子としての歩み

① クリスチャンの性質は光 (V8)

V8 「以前は暗闇、今は、主にあって光」

例 NY のエレベータに乗っていた 7 人の人たち。停電になり、一時パニック状態。しかし、一人の人が小さな懐中電灯を持っていた。その小さな光によって恐れが去り、安心と励ましをもたらした。私たちクリスチャンは、懐中電灯のよう。電源はイエス様。イエス様が恐れを消し、平安を与える。大きくなくていい。”on”になっていればいい。

★★★「聖書的自己像」をもつことの大切さ★★★

※主はいつも、私たちの主にある立場をはっきり示し、それを基として行動を命じる。

● 光とされたのだから → 光の子どもらしく歩む

● 義とされたのだから → 正しい歩みをしよう

● 愛されているのだから → 愛のうちを歩む

主は無理なことを言っていない。聖霊様によってできること。

② 光はいのちの実を結ぶ (V9)

・光は実を結ぶ(光合成)。光合成：緑色の植物が、光のエネルギーによって、一酸化炭素と水から炭水化物を合成する作用。炭水化物：動植物体を構成する物質・エネルギー源として重要な物質。

・暗闇は実を結ばない(V11)。

・光の結ぶ実は：善意(4:32) 正義(4:24) 真実(4:24 真理、4:25 真実)

・「実」は Gr. カルポス(単数) 光の結ぶ実は、別々、バラバラでなく、美しい、おいしい一個の実。

③ 光は主に喜ばれるものを明らかにする (V10)

・「そのためには(光の子どもらしく歩むためには)、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい」

見分ける：Gr. ドキマゾー 試験して証明する、本物であることを証明する、という意味。

つまり、「主に喜ばれることが何であるか」は、もちろん聖書を読み、書物を読むことは助けにはなるが、それよりもむしろ、私たちの思索(考えめぐらすこと)の中や生活体験の試行錯誤の中で本当の主のみこころをふるい分けていくもの。→ ヘブル 5:14 「～経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たち」

クリスチャンの成熟、特に善悪の判断には、実生活における試験や訓練というものはとても大切な位置を占めている。実生活における経験によって、吟味していくことが大切。何かをする前に、「イエス様はこのことを喜ばれる

だろうか？」と問う。クリスチャン生活の基準は、「イエス様がそのことを喜ぶということ」 WWJD

例 結婚生活：夫は、妻の喜ぶことと嫌いなことを、正に試行錯誤で見分けていく。そして愛するゆえに、妻の喜ぶことをしようとする。→ イエス様に対しても同じ。

④ 光は暗闇のわざを明るみに出す (V11)

・「暗闇のわざ (V3~6) に仲間入りしないで、むしろ明るみに出せ」：私たちクリスチャンが罪を離れて、主の光の中に生活する事によって、暗闇のわざを明るみに出す。これは、いちいち口に出して叱る煙たい付き合い方ではなく、ひたすら光の子らしく、きよく正しく生活することによって成し遂げる。

● この暗い世におけるクリスチャンの光の子供らしい歩みとは：

1. 完全な絶交や逃避、「出家」的な生き方ではない。
2. しかも、頭から世間の常識や習慣をうのみにして生きる妥協でもない。
3. 暗い世にあって悩みつつ、試行錯誤を繰り返しながら、「主に喜ばれることが何であるかを」具体的に吟味していく歩みだ。
4. また、「今は光となっている」のだから、周囲に光を注ぎ、暗闇のわざの暗さやうつろさを「明るみに出す」貢献をしなくてはならない。そういう「光」に、主にあってならせていただいているのだから。

例えば、接待のマナーにおいても、クリスチャンはお酒の力を借りなくとも聖霊よっていつも開放感があり、あたたかい人との交わりから来る心地よさを経験させる者であるべき。お酒を飲んで経験する以上の居心地のよさをサービスできるほどのクリスチャンになりたいものだ。

⑤ 光は触れる物を明らかにし、それを光に変える (V13)

・光を照らされたものは、明るくなり、ある程度光を放つようになる。

例 月：ある種のダイヤは、太陽の光を吸収して後、その光を発する。

・イエス様が暗闇の中にいる人に触れると、その人は変えられる。V8→以前は暗闇、今は、主にあって、光となった。

☆霊の目で見たら、クリスチャンは皆光ってる！ それゆえ、暗闇が去っていく。そして、光の子どもは、まだ暗闇の中にいるほかの人々に手をのばすようになっていく。キャンドルサービスのキャンドルの光のように。

・悪は暗闇の中にある限りは栄える。しかし、光の中に引き出されると、死ぬ。これゆえに、主イエス・キリストに来るのを拒む人がいる。確かに主の光は、罪・悪を明るみに出す。しかし、太陽の光がそうであるように、主の光はエネルギーを与え、いやし、回復させる。植物のように。

⑥ 光は「眠っている人」の目をさます

V14 例：パット・ブーン「奇跡の日々」のストーリー

・「眠っている人よ。目をさませ。」

A. 未信者に対する呼びかけ

暗闇の世に属している彼らは霊的に「眠っており」「死んでいる」。これは、その未信者に対する呼びかけ。

☆主イエス・キリストのことばは、死人さえも生き返らせる創造的な力がある。主イエス様こそ、私たちが暗闇から光へと導き入れてくださった方！

・V14 のこの引用は、キリスト教会の賛美歌と言われている。初代教会のバプテスマの歌か。救われた者が墓の暗闇から復活のいのちの光の中に出てきたことを象徴することば。

B. クリスチャンに対する呼びかけ

・V11~14 のことが書いてあるのは、光の子どもとされたわたしたちが光の子ともらしくなくなる危険性が常にあることを知らせてくれる。光の子どもとされたのに、不従順の子らと仲間になったり、暗闇のわざに仲間入りしていると、霊的に眠り込んでしまう。☆これを警告とらせていただこう。→ ローマ 13:11-3 マタイ 24:12-14

「賢い人のように歩む」 5:15-17

■5:15-17 どのようにして賢い人のように歩むか？

1. よくよく注意して (V15)

・「賢くない人」(Gr. アンフォイ → 知恵のない人→ 愚か(者)v17と同じ)

考えない人、無頓着な、不注意な人、世的な人、霊的なこと(神、永遠、死後)を考えない人のこと。

例 ルカ 12:20「愚かな金持ち」自分のこととこの世のことだけを考えていた。→ 本当の愚か者

・「賢い人」よく考える人、注意深い人、霊的なことを考えながら歩む人のこと。

(Gr. ソフォイ) 神を知っている人のこと。ソフィア(パウロが神の真理に用いていることば)を持っている人。

「1つの行動のありそうな結果を予想できる人。災いをもたらしそう、後で後悔しそうは避けるよう行動する人。」ミットン

観念的・抽象的なことにのみ傾いて、実際生活が不注意になり、口先ばかりになり易いことに対する警告。

・「賢い人のように歩んでいるかどうかよくよく注意しなさい」

「よくよく」Gr. アクリボース: 正確に、詳細に、徹底して、綿密にという意味。

つまり、「創造主のハンドブック」(=Bible)に従って、正しく、細い所も歩んでいるかどうかをチェックせよという指示。

例 ホットケーキのおいしい作り方: ① パッケージにある指示通りにつくる。(製造者いちばんよく知っているから。)

② 経験から、おいしくする秘訣がだんだんわかっていく。クリスチャン生活も同じだなあ、と思う。

細いところまで、「創造主のハンドブック」に従って生活すれば、うまく行く。② 試行錯誤(V10)によって、主に喜ばれることがなんであるかがわかっていく。

2. 機会を生かすことによって (V16)

・クリスチャンの頭の使いどころは、機会を十分に生かして用いること。

・原語では、「時間を買取りなさい」「物を買うのに、ある価を払うのと同じように善い事を行うために、力を費し、犠牲を払え」ということ。競り市で機会を捕らえて買うという意味合いがある。

● 日常生活において主のために何が出来るか。 ● この機会をとらえて、どのようにあかしができるだろうか。

● 良いチャンス、きちんと利用する。 ● 時は万人共有のもの。世の人が悪用したり、空しく過ごしている時間をクリスチャンは有効に使おう。 I コリント 7:29 「時は縮まっています。」

・パウロがこれを書いた時代背景

「パウロがエペソ人への手紙を書いた1、2年後には皇帝ネロの気まぐれから例のローマの大火が起こり、これがキリスト者のせいにして多くの者が虐殺され、それから4年ほど後にはパウロの殉教、ペテロの殉教となる。やがてネロ自身も暗殺されて、帝国は内乱に揺れ、68年と69年の間には4人もの皇帝が乱立し、その間にユダヤ戦役が起こって70年にはついにエルサレムが壊滅するに至る。ローマの獄窓から、このような時兆を見てとったからこそ、パウロは今という時を大切に、この好機を逸してはならないと勧めるのである。」 「新聖書注解 新約2」より

・「悪い時代だからです」 エペソ 6:13 「邪悪な日」 ガラ 1:4 「今の悪の世界」

神様のために働く機会はいつまでもあるものではない。時代は悪い。だからこそ今ある「時」、「機会」を逃さないで用いよう。

・イエス様のことば: 「わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。」 ヨハネ9:4

福音を伝える機会が来たらそれをつかもう。

「機会」: Gr. カイロス この言葉は、「すぐに過ぎ去るかもしれない特別な機会」、「危急の時」を意味する。パウロは、その時をつかめ、今、目の前にあるうちにその時を買取り、と言っている。モルデカイがエステルに言ったように: 「あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」 エステル 4:14

エステルは自分に与えられた賜物とこの機会を用いて、ユダヤ人を虐殺から救った。主はあなたを用いて、人々を滅びから救う。今だ! 今しかない、という時がある。勇気をもって、その機会をとらえよう。

例 韓国の教会では、新聞などで、〇〇さんが倒産した、などという記事を読んだら、その人を慰め、励ましに行き、

助けてあげ、愛を示す。

・「今ある機会のほうが、望んでいる機会より大切である。」今与えられている機会を用いよう。

3. 主のみこころを悟ることによって (V17)

・目前にある機会を活用できずに見逃してしまうことは愚か。その機会をつかむためには、何が機会であるかをしらなければならない。このような知識、つまり、「主のみこころ」はどのようにして悟るのか？

① 神のみことばを知ることによって→ 神の救いの計画を知る事の大切さ エペソ 1:9, 10

② 聖霊の導きに敏感になることによって→ 自分への具体的な計画を知る事の大切さ エペソ 3:7-11

※このことに関して祈ると良い祈り

● 「主よ。私たちが時を悟り、何をなすべきかを知る事ができますように。」I 歴 12:32 に基づいた祈り。

● 「あなたのみこころを行うことを教えてください。」詩篇 143:10

「御霊に満たされなさい」 5:18-21

■5:18-21 どのようにして「賢い人のように歩む」のか？

V18 酒に酔わないことによって、御霊に満たされることによって

・なぜ酒に酔ってはいけないのか？「そこには放蕩があるからです」「放蕩」Gr. アソティア 体が衰弱していくこと、手に負えない、制御できない行動、騒ぐこと、乱暴、墮落。同じことばが副詞として、ルカ 15:13 で放蕩息子に関して使われている。

・「酒に酔うこと」：肉の行い(ガラ 5:21)のうちのひとつ。神の国の相続から締め出すもの(I コリント 6:10)。必ず無節制や不道徳につながっていく。

・では、なぜ人は酒を飲み、酒に酔うのか？それは、「渇き」があるから。心が渇いている。その渇きをいやし、自分を満たそうとして飲む。しかしその結果はドリンク剤と同じ。「ファイトー、一発！」と、にせの元気が与えられるだけ。一時的には渇きが癒され、満たされるが、すぐ又渇く。→ 又飲む。酒に限ったものではない。いろいろなもので自分を満たそうとしている。

・聖書の答え：「むしろ」御霊に満たされなさい。御霊にあなたの「渇き」をいやしていただきなさい。

・イエス様のことば：「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っている通りに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。」ヨハネ 7:37-39

・自分の渇きを知っている、例えば、アルコール中毒患者の方が自分の渇きに気付いていない人より、救いや聖霊の満たしに近い、と言えるのではないか。

・私たちクリスチャンも聖霊以外のもので満たしや満足を求めようとするのがないか？(主の下さる様々な楽しみ、喜びが悪いのではないが。)この世のもので満たしを求めてもそこに真の満たしはない。

V18 「御霊に満たされなさい」 聖霊に満たされることによって「賢い歩み」ができる

・「これは、大伝道者パウロやペテロのためだ」とか「私はダメだ」と思っていないですか？

聖霊の満たしは、信じる者すべてのため。聖霊に満たされて大伝道をしなければならない、というのではない。聖霊に満たされて学校に行き、会社に行き、家事をする。

・これは、人格を持った聖霊様との交わり(II コリント 13:12、ピリピ 2:1)である。聖霊様と共に歩むこと。

■■■聖霊に満たされたら、結果として期待できること■■■

① 歌う心 (V19)

喜びのしるし

・「心から歌う」1人の時でも歌が生まれる。

・「互いに語り」 初代教会時代からキリスト教会の特徴は、集会の時に歌うこと。

・「主に向かって心から歌い、また賛美しなさい」

「歌い」 Gr. サロウ (psallo) 指で弦楽器を弾く、和音をひく、ハーブに合わせて歌う。Psallo から psalms (詩篇) という言葉ができた。

・何を歌うのか？ 「詩」：詩篇のことであろう。「賛美」：クリスチャンの作った歌。「霊の歌」：クリスチャンの作った歌、心の歌、自発的な歌 (I コリ 14:15 「霊において賛美」)。

② 感謝する心 (V20)

・神を知らない人、知ろうとしない人の特徴は、「感謝をしない」(ローマ 1:21)こと。

・「いつでもすべてのことについて～感謝しなさい」

Q. なぜすべてのことについて感謝できるのか？

Ans. すべてのことが主の御手の中にあるから。

③ 尊ぶ心、従う心 (V21)

・「キリストを恐れ尊ぶ」 聖霊に満たされると、今まで以上にキリストを愛し、敬うようになる。

・「互いに従う」 (V22-33 夫婦、6:1-4 親子、6:5-9 奴隷と主人(社会))

・1人1人が聖霊に満たされ、高められ、熱くされたからといって、何か別個なものになるのではない。依然として、キリストの体の一部分である。ゆえに、従い合うことはとても重要。これは「キリストを恐れ尊ぶ」ことのみにおいて実現する。

※歌う心、感謝する心、尊ぶ心、従う心はすべて聖霊の満たしの結果であるだけでなく、聖霊の満たしを保つ秘訣でもある。

● どのようにして聖霊に満たされるのか

1. 渴くこと マタイ 5:6

「義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。」 マタイ 5:6

・別な言い方をすれば、「主に喜ばれる人生を送りたいと願うこと」(エペソ 5:10)。

・過去にどんなにすばらしい聖霊の体験をしたとしても、私たちは再び聖霊に満たしていただくかなければならない。

例：使徒 4:31 ペンテコステを経験した信者達が再び聖霊に満たされた。

「一同は聖霊に満たされ」 教会全体が聖霊に満たされることを求めよう！

2. 示される罪をすべて告白し、悔い改める Iヨハネ 1:9

・「聖霊様のファーストネームは聖である」ことを忘れてはいけない。

※誤解してはいけないのは、もっと成長し、完全なクリスチャンになり、聖人のようにならないと聖霊に満たされない、のではない。むしろ、完全に向かい、聖くなり、成熟に向かうのを助けるために、聖霊の満たしが与えられるのだ。

3. 自分を主にゆだねる

・5:18にある対称：「酒の支配下にある人」と「聖霊の支配下にある人」

・主に自分自身を明け渡す

例 小さい子供が海岸でコップを砂いっぱいにして遊んでいた。お母さんに、「ジュースちょうだい」とコップを出しても、お母さんはそのコップを見て、汚いのでコップにジュースを注いであげられない。また、コップを洗ってきれいにして子供が持ってきても、子供がコップを出さないならお母さんはジュースを注いであげられない。

・明け渡す分だけ主は満たしてくださる

4. 聖霊に満たしてくださいと祈る

「わたしは、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれであっても、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。あなたがたの中で、子どもが魚を下さいと言うときに、魚の代わりに蛇を与えるような父親が、いったいいる

でしょうか。卵を下さいと言うのに、だれが、さそりを与えるでしょう。してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。 **とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありますよ。**」 ルカ 11:9～13

・聖霊に満たされる事を恐れている人のためのことば：「石」(何の価値もないもの)、「さそり」(危険なもの)、「へび」(悪魔的なもの)は決して受けないことを伝えてあげる。聖霊の満たしのために人に祈ってもらうこともよい。

5. 聖霊に満たされたことを信じる

・感情に頼らないで、主に対して礼拝、賛美、感謝をささげ続ける。

・5:18 のギリシャ語の文法では、「聖霊に満たされ続けなさい」という意味になっている。

「妻たちよ。夫たちよ。」 5:22-33

・「家庭、家族」をつくってくださったのは神様。本当にすばらしいもの。感謝。社会一般では、その家族がものすごい勢いで崩壊していつている。クリスチャンはなぜ、同性愛者を愛しつつも、同性愛には反対するのか。それは、同性愛というものが家庭、そして社会を崩壊させるから。男と女の役割を混同させるから。私たちは、最初から人を男と女につくられ、結婚と家族というものを造られた、神のことばからしっかりと教えられ、実践しなければならない。これは、「聖霊に満たされる」(V18)ことによってできる！

■5:22-24 妻たちへの教え

V22 「妻たちよ」これは命令。

・神のみこころは、私たちの幸せのため。私たちが愛にあふれた、平安な、豊かな人生を送れるため。十戒の前に、「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である」(出エ 20:2)とある。主の命令の背後には主の愛がある！

・「あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい」

● 妻が夫に従うべき2つの理由

① 従うことは主のみこころだから (V22)

・私たちが愛してくださる主のみこころだから、と単純に従うべき。

・「主に従うように。」主は夫に従っている妻を見たら、ご自分に従っていると見てくださる。だから、「みことばに従わない夫であっても」(I ペテロ 3:1)、みことば通りに従うべき。→ そうすれば必ず祝福される。なぜならみことばを行う者は祝福されるのだから。ヨハネ 13:17 ※注意：暴力や虐待などを甘んじて受けよという事ではない。

② 従うことは、神様が家族に定めた秩序であるから (V23)

A. 夫は妻のかしらである

・「かしら」とは、権威のことであって、男が女に勝った存在という意味ではない。男と女は神の目には全く平等である。男と女の間には神様から来たパートナーシップ(協力関係)がある。(I コリント 11:11-12)

夫が妻のかしらであるということは、能力とか価値とか、頭の良さとか優劣のことではなく、一つの家族と言う組織の中の役目とか秩序のことを言っている。すべての組織が正しく、効果的に機能するためには、かしらが必要である。神の組織の例：宇宙(かしら：神)、教会(かしら：キリスト)、家族(かしら：夫)、飛行機(パイロット)、会社(社長)。家族はパートナーシップ(協力関係)であるが、かしらとして夫が立てられている。

・ひとつのからだに2つの頭はない。妻は夫の横(あばら骨)からとられた。心のそば。足の下ではない。

B. 妻が従うべき模範 V24

・「教会がキリストに従うように～」

教会 キリストが教会のかしらであるということは、教会に対する最終的権威であるということ。教会がこれを認め、これに従うかぎり、秩序が保たれ、愛、喜び、平安があふれ、地上におけるその任務を果たすことができる。

夫 同じように、夫が家族に対して最終的権威を持っている。妻が、教会がキリストに従うのと同じように夫に従うなら、家族には、愛、喜び、平安、秩序があり、この地上で、その任務を果たすことができる。

そして、イエス様が教会の救い主であるように、夫は妻を守り、慰める者となる。主に忠実な夫は、このように妻を守り、慰める者となる。

■5:25-33 夫たちへの教え

V25 「夫たちよ」 妻に対しては3節、夫に対しては8節。夫の責任は大きい。結婚というものが、いかに夫の愛にかかっているかがわかる。

● 夫の妻に対する愛はどういう愛か

① キリストが教会を愛したように愛する V25

・これは、アガペーの愛。愛する者の最上を願う愛。

・キリストはどのように教会を愛したか？ → 「教会のためにご自身をささげられたように」

自分自身をささげ尽くした。与える愛、献身の愛。それは、「意志の愛」であると同時に「情のこもった愛」でもある。

例 私は結婚前にこれで悩んだ。：「自分の妻を好きでなくなったらどうしよう」と。しかし、愛は意志的なものであり、好きでなくなっても愛するのだと言うことを知った。愛する決心をする時、好きである感情とか、愛情というものが生まれてくる。私は「偕老の契り」を全うしたいと願っている。「じさまとばさま」になっても、若い時に交わした結婚の約束を守り、愛し続けるのが、「偕老の契り」。愛し合っている年配の夫婦を見ると励まされる。

② きよめて聖なるものとする愛 V26, 27

「みことばにより～聖なるものとする」

・若い男性が若い女性に「ぼくの妻になってください」という時、彼は、彼女のみのために自分を「聖別する」。彼のことばと約束が、彼女をも聖別に導く。夫も自分の純潔を守り、他の異性から別れる。結婚生活の間中ずうっとこの愛が結婚を守る。

☆サタンはこの領域で特に男性をねらっている。かしらをねらっている。不純な思いで攻める。誘惑する。夫は、妻への愛にもう一度真剣に献身しなければならない！ 誓いを新たにしなければならない。

・夫の愛が聖いものであれば、それは、27節にあるように妻をも「聖く傷のない」ものへと導く。

※これは、今イエス様が、ご自分のからだである教会にしてくださっていることでもある。内なる癒しなどを通して、「しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会」を建てあげて下さっている。

● 教会に対するイエス様の愛のわざの三つの時

① V25 キリストは教会を愛された（過去）

② V26 キリストは教会をきよめて（現在）

③ V27 栄光の教会をご自分の前に立たせる（未来）

③ 自分のからだのように愛する V28, 29

V29 「養う」 Gr. Ektrephei 食物を与える、服を着せる、栄養を与えるの意。→ 夫は生きている限り妻を養い続ける。

「育てる」 Gr. Thalpei 元々の意味はあたためる、あたたかくしてやわらかくする、保温するの意。

ちょうど、鳥が自分の羽毛でひなをおおってあげるように(申 22:6)。

同じように夫は妻を優しく愛し、あたたかく接し、いたわってあげる。ねぎらう事が大事。

例 最初の日本語の新約聖書は「神の愛」を「デウスのご大切」と訳した。 私たちも愛する人を大切にすべき。

④ ひとつとなる愛 V31

A. 夫の妻に対する愛は、父と母を離れることを意味する。精神的、経済的に自立すること。

B. 主のみこころは、夫と妻がひとつとなること。

イ. 肉体的に：神が夫婦に与える祝福である性関係。

ロ. 魂の面で(精神的に)：お互いの考え、夢、心の願いを分かち合うことによって、ひとつとなる。

ハ. 霊的に：共に主を礼拝し、主をあがめて歩み、ともに祈ることによって霊的にもひとつとなることができる。

・「もし、ひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。」 伝 4:12

「三つ燃りの糸」：クリスチャンの結婚は2人のパートナーではなく、夫と妻とイエス様の3人。クリスチャン夫婦は、「イエス様、私たちの結婚を導き、私たちを一心同体としてください」と祈るべき。

・結婚は「奥義」

- 結婚を人間的に理解しようとしても、限界がある。神様がみことばから教えてくださらなければわからない。
- 結婚はキリストの教会に対する愛によって明らかにされ、強められる。祝福された結婚はイエス様の愛によって、築かれる結婚。クリスチャン夫婦はこれを目指そう。

・結論は単純明快 V33

- 女性にとっては、特に「愛される」という必要がある。→「夫は妻を自分と同じように愛しなさい。」
- 男性にとっては、特に「尊敬される」という必要がある。→「妻もまた、自分の夫を敬いなさい。」

エペソ 6 章

「子どもたちよ」 6:1-4

・今の世代は「反抗の時代」。これは、世の終わりのしるしの一つ。「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。そのときに人々は、、、両親に従わない者、、、になるからです。」Ⅱテモテ 3:2 ゆえに、これはパウロの時代だけでなく、現代の私たちにとっても重要なメッセージ。神のみことばに従えば、個人も家庭もしあわせになる。子供だけでなく、親も、雇われている人だけでなく、雇い主も、神の権威のもとで歩むべき。

■6:1-4 親と子の関係

A. 子供へのすすめ (V1~3)

「子供は両親に従うべきです」

・「従う」⇒ 言うことを聞く。子供は親の導き、アドバイス、命令に従うべきである。

1. 主にあって両親に従う (V1)

・V22 の「主に従うように」と同じ精神。

— クリスマンであれば従い、親が未信者や仏教徒などであれば従うな、という意味ではない。

— この世の風潮(罪のままに生きる人間の現状)は、ローマ 1:30 「親に逆らう者」。それに対して主にある子供たちは、両親に従いなさい、ということ。新共同訳「子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。」

・もちろん「従う」のにはリミットがあって、「偶像を拝め」に従う必要はないし、親の虐待に甘んじよ、というのでもない。

・語源的に見れば、この「従う」は、「ドアを叩く者を聞き分ける」(使 12:13)ことを表す。つまり、子供は親の言うことに耳を傾けよ、ということ。→ 箴 6:20~23

・ただ親の言う事をすねてハイ、ハイ、と聞いて従うばかりが、主にある子供のとるべき態度ではない。

・うるさい親だなあ、と思うことは子供の本質。しかし、耳障りの悪い親のことばであっても、よく聞き取っておくのが、大事。→ 大人になってから思い出し、それがともしび、光、守り、(V22)力となる。「命令はともしびであり、おしえは光であり、訓戒のための叱責はいのちの道であるからだ。」箴言 6:23

例 「私の父は「お前を愛してるからたたくんだよ」と言ってスパックをした。その時はいやだったが、今はわかる。感謝している。

・「これは正しいことだからです。」 V1 「それは主に喜ばれることだからです。」(コロ 3:20)

従うということは、形の上だけのものではなく、心からのものでなければならない。

2. 両親を敬いなさい (V2)

・真の従順は心の伴った従順でなければならない。

・「敬う」: 「尊い人々として重んじ、たいせつにしなさい」 詳訳聖書

親は欠点があり、失敗もある。でも尊ぶことが大切。

・従う(言うことを聞く)のは親の世話になっている間。しかし、敬うのは、自立した後も、一生の間続く。大人になってしまったら、自分が親の世話になったことを忘れてしまいやすい。しかし、結婚して自分の子供が生まれたら親の恩がわかるようになる。

☆親が子供にかける 3 つのこと ① 手間をかける ② 気をかける ③ 金をかける 成人するまでにいくらかかるか? アメリカで一人の子供に、誕生から 18 歳までにかかる費用: 約 1700 万円。

・親を持つ子供は、親への感謝を決して忘れないようにしましょう。「自分の家の者に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせなさい。それが神に喜ばれることです。」Ⅰテモテ 5:4

○ 子どもの親に対する態度の成長段階 ① すべてが良く見える ② 欠点が見えて来て、批判的になる ③ 自らの弱さがわかり、親の立場を理解し、支えるようになる。→ このように成長しよう。

親を敬う事に関する旧約聖書からの引用

- ◎ 箴言 23:22 「あなたの年老いた母をさげすんではならない。」・どんなによぼよぼになっても、大切にしよう。
母親をよぼよぼにした原因の1人はあなた。
- ◎ 箴言 30:17 「自分の父をあざけり、母への従順をさげすむ目は、谷の鳥にえぐりとられ、わしの子に食われる。」
・鳥に目をえぐりとられたくなかったら、両親に従い、敬おう。
- ◎ レビ 19:3 「おのおの、自分の母と父とを恐れなければならない。」・「恐れる」とは敬う事。
- ◎ レビ 19:32 「あなたは白髪の老人の前では起立し、老人を敬い、またあなたの神を恐れなければならない。わたしは主である。」・老人を敬う事の大切さ。敬老の日だけではない。
- ◎ 申 27:16 「『自分の父や母を侮辱するものはのろわれる。』民はみな、アーメンと言いなさい。」・子供に熱いストーブに気をつけさせ、車の通る道に気をつけさせるように、神様は愛をもって危険な行為に対して、私たちに警告して下さる。
・「これは第一の戒め」 V26 → 約束を伴った十戒中唯一の戒め。両親に従い、敬うことがいかに神様によって高く評価されているかがわかる。

3. 両親を敬う者への祝福の約束 (V3)

- ① 「地上で長生きする」：文字通りに理解してよい。きわめて現実的な約束。神の恵みを体験しながら生きるのが、「しあわせな長生き」。罪赦され、罪に勝利して行く(きよめていただく)人生。主が私たちを守り、共にいてくださることが何よりの幸せ。
- ② 「しあわせになる」：何もかもうまく行く、問題もない、苦しみもないということではない。しかし、これは生ける限り、主が共にいて下さって、すべての試練に打ち勝たせて下さるということ。人生の旅で出くわす、すべての困難を乗り越え勝利させて下さるということ。心には平安と喜びをもって歩ませて下さる。

B. 両親へのすすめ (V4)

「父たちよ」「父」 Gr. パテロス 複数形パテレスで「両親」の意。「父たち」を意味するよりも両親を意味する。父親の責任の方が大きいですが、ここでは父たち、母たちに語られている。

・親も子供に対して義務を負っている。

- ① 「子どもをおこらせてはいけません」

コロ 3:21 「子ども～を気落ちさせないためです。」

LB 「子供を、いつもがみがみしかりつけ、小言を並べ立てて、反抗心を起こさせたり、恨みをいだかせたりしてはいけません。」

親である優越性をよいことに、親の権利を乱用してはならない。

- ・物事を正しく認識せず、自分の感情で子供を叱ってはいけない。
- ・自分が守ってもいない規準を子供に要求してはいけない。
- ・子供の人格を無視して、自分の願望を子供によって達成しようとしてはいけない。

では、子供を甘やかす、野放しにしているのか？

いや、かえって

- ② 「主の教育と訓戒によって育てなさい」

LB 「かえって、主がお認めになる愛のこもった訓練と、助言や忠告を与えて育てなさい。」あらゆる機会に主のことを教えよ。

・「主の教育と訓戒」

親が自分で良いと思うように育てるのではない。① 自分が育てられたように ② 世の中の方法に従って(例: スポック博士の育児書)ではなく、子育てにおいては、主のみことばをガイドとせよ。

- ・箴言を開こう。「最も古い育児書」、「最も信頼できる育児書」、「最も効果的な育児書」
 - ・親も主によって教育され、主の愛に生かされていなければならない。親の成長が不可欠。子育てには非常に大きな忍耐と愛、知恵が必要。
 - ・親子で祈り合える関係を大切にしよう。
 - ・神を知っていることのよろこび、自由を味わわせる(禁止事項づくめの窮屈な家庭にしない)
 - ・きちっと教えるべきことは教える。主に導かれて、それぞれの家庭のルールを決める。
- ☆親たちに主の愛と知恵、忍耐、恵みが多くあるようにお祈り下さい。

「奴隷達よ。主人達よ。」 6:5-9

■6:5-8 「奴隷たちよ」

エペソ人への手紙が書かれた時代、6,000万人の奴隷がいたと言われる。

・アリストテレス：「農夫の3つの道具」

① (自分の考えを)はつきり表現できる道具：奴隷 ② (自分の考えを)はつきり表現できない道具：牛

③ 口のきけない道具：すき(農作業用の) ・このように奴隷は人間扱いされていなかった。病気、老齢になったら捨てられていた。役に立たないから、食べさせるのもつたいないと考えられていた。

・ところが、聖書は彼らにストを起こしたり、革命を起こしたりせよとは言わない。神様は、奴隷たちの状況をすぐには変えなかった。神様は、置かれた状況の中で、まず心の中から「革命を起こし、勝利へと導く」御方。

⇒ 私たちにとってもそうである。主は必ずしも私たちを、苦しみ状況からすぐには解放しない。でも、心に愛と喜び、平安、感謝、真の自由を与えてくださる。

「神はわれらの避け所、また力。苦しむ時、そこにある助け。」詩篇 46:1

・当時のクリスチャン奴隷はこう思っていたことだろう。●「イエス様が私の主なんだ！私を真に自由にしてください方なのだ。何とすばらしい主人を私は持つことができたんだろう！」●「良いことを行ない続ければ、真の報いを主から受けられるのだ！そうだ、一生懸命働こう！」このように喜びながら働いていると、お金と地位のある主人は自分よりも奴隷が喜んでいっているのを見て、不思議がっただろう。そのようにしてキリストに導かれていったはずだ。

V5 「キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい」

「恐れおののいて」：上司を恐れるとか、悪いことや不都合なことが起きるのではないか、という恐れでなく、神への敬いの恐れをもって、ということ。職場で、主の御名が汚されることがあってはならない、という恐れ。

→ I ペテロ 1:17 「また人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。」

V6, 7 「人のごきげんとりのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行い、人にではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい」

・働くことは、人間の墮落以前に主が与えてくださったこと。→ 創 2:15 「神である主は、人を取り、エデンの園に置き、そこを耕させ、またそこを守らせた。」 NIV “to work it” 主は労働を祝福された。

・主はあなたにすべき、仕事を与えた。それはのろいではなく、祝福。もちろん罪が入って呪いとなった(3:17)。しかし祝福の鍵は、V5 キリストに従うように、V6 キリストのしもべとして、V7 主に仕えるように、とあるように、どんな仕事であれ、イエス様に対してする時に祝福されたものとなる。

・あなたの仕事に、好きな部分と最も嫌いな部分があるだろう。それをする時態度を変えて、イエス様に対してせよ。それが、仕事が楽しくなる秘訣。

V8 「良いことを行えば～報いを主から受ける」

・世の中では「正直者はバカを見る」という。しかし、どのような立場であれ、「良いことを行えば、報いを主から受ける！」人が見ていなくても、主が見ていて下さる。→ 主が報いて下さる。むだではない→ I コリ 15:58

V9 「主人たちよ」

・やがては上に立つ者も、下にいる者も一緒に並んで主の前に立たされることを忘れるな。人の上に立つ者は、必ず、その上にも、主の主がおられる。

結論：すべての人間関係において祝福される原則が 5:22~6:9 にある。それは、イエス様を恐れ尊んで、互いに従うところから来る。そしてそれは、聖霊の助けによって必ずできる。

「クリスチャンと悪魔の関係」 6:10-11

・ここからは、クリスチャンの信仰生活の別な面について教える。クリスチャンは戦場にいる。これには、理解のバランスが必要。何もかも「霊の戦い」ではない。しかし、好むと好まざるにとかかわらず、知っているかいないかにかかわらず、すべてのクリスチャンは霊的な戦いの中にいる。毎日。

・この箇所の「姿勢」は「立つ」→ V11 立ち向かう V13 堅く立つ V14 しっかりと立ちなさい
悪魔の策略に立ち向かう必要。しかもこれは、勝利を確信した姿勢。

■6:10 「戦闘準備命令」その1

・5:22~は人間関係を扱っている。6:10~も関係。それは、サタンと私たちクリスチャンとの関係。

・人間の力で、悪魔、悪霊と勝つことは到底できない。スケワの7人息子はそれをやろうとして痛い目に会った。使徒 19:13-17
勝利は、→「主にあって、その大能の力によって強められる」ことによって得られる。霊の戦いに勝利するためには強くなければならない。

1. しかし、「強くなれ」でなく、「強められなさい」である事に注意！

・生まれながらの自分にはない、主の大能の力を主に求めなさい、ということ。この箇所のギリシャ語は受動態の命令形「エンデュナモー」になっている。→ 3:16 の「力」と同じことばが使われている。

・「いつもいつもくり返して強められ続けよ」という意味。「主は私の力！」と告白し、その力を求めよう。→ この宣言は詩篇にたくさんあり。宣言しよう。

◎ 霊の戦いにおいて知らなければならない 3 つのこと：① 敵である悪魔の力をあなどらない ② 自分の力ではサタンに勝てないことを知る ③ 神とその力を知る！

2. 主にあって in Christ

・「主にあって」とは、主としっかり結びついて、主と心をひとつにすること。

・「私も結構力がついて来た。ひとりでも結構できる。」と思うようになったら危ない。肉に対してなら、自分の力で戦えると思うかもしれない。しかしそれも自分の力では負けるに決っている。ましてや霊の戦いは自分の力では絶対に勝てない。

「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」ヨハネ 15:5

∴ 私たちが強められるのは主にあってのみ。

サタンは私たちが主の支配から常に引き離そうとする。私たちはいつも、主にとどまろう！主との関係を強く熱く持ち続けよう。これだけが私たちに勝利を与える。

☆ 3:16-19 の祈りの大切さがここにある。主の愛を確信すればするほど、霊において強くされる！ ☆

■6:11 「戦闘準備命令」その2

A. 悪魔

・2つの極端 ① 「そんなものいない」「迷信だ」「科学文明前の産物」「マンガの世界だ」無知や無視。
② 悪魔・悪霊を意識しすぎる。身の回りの出来事を何でも悪霊のせいにする。強調しすぎて恐れる。

● 敵である悪魔に関する大切な理解

① 神と悪魔は同等の力を持っていない。「善の神」対「悪の神」ではない！

- ・神は、永遠からおられた創造主なる神。遍在、全知、全能なるお方。
- ・悪魔は創られた者。有限。遍在できない、全知でない、限られた力しかない。
- ・主は良い目的をもって、悪魔の存在を許している。

② 勝利の側は決っている。主の側が勝利する！

- ・最終的勝利 黙示録 19:11-21、20:10 「そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との燃える池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」
- ・今日の勝利 黙示録 12:10、11
- ・霊の戦いの中で失敗したり、一時的に倒れても、落ち込まない。ミカ 7:8 「私の敵。私のことで喜ぶな。私は倒れても起き上がり、やみの中にすわっていても、主が私の光であるからだ。」
- ・私たちの主は「王の王。主の主。」 私たちは、最終的結果を知っている。戦いの最中にいるとき、これを忘れない。勝利の確信をもって戦いに入って行こう！

B. この悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために神のすべての武具を身に着けなければならない

- ・「神のすべての武具」→ これを身に着けるとサタンは、私たちをではなく、神(イエス様)を見る。
- ・「神の武具」：人間的なものではない。神様が準備してくださったもの。「あとはそれをホックにひっかけてままにしないで、自分のために用いること」が大事。
- ・ある意味で、イエス様が私たちの武具。主イエス・キリストにある者であれば、これらの武具は備わっている。しかし、「身につけなさい」とあるから、これらの「武具」をきちんと身につけているか、心構え、態度はできているかをチェックする必要がある。

例 飛行機は、離陸する前に必ず、機器をチェックする。毎回ほとんどまちがいがなく飛び立つのだが、必ず点検するクリスチャンも、チェックする必要がある。・武具は大丈夫か。・ずれてないか。・穴はあいていないか。・はずれかかっている武具はないか。・つくろう必要はないか。

「神のすべての武具をとりなさい」 6:12-18

- ・「霊の戦いに勝利する秘訣」(W. コデーロ牧師)
- 「霊の戦いに関して色々なことが言われている。しかし、大切なことはそんなに難しくない。イエス様との個人的な関係ができていれば、親しく交わってれば、大丈夫。悪魔は逃げていく。」

■6:12 「私たちの格闘は血肉に対するものではない」 — 主にある兵士の真の敵 —

① 人間(血と肉)と戦うな

- ・サタンの策略(V11)のひとつは、人間同士を戦わせること。

例 北アイルランド紛争、嫁と姑、友達、(主にある／肉にある)兄弟姉妹、夫婦。

- ・「罪を憎んで、人を憎まず」 職場内、学校で、一歩進んで人を愛そう。もちろん訓戒、叱責も必要だが。

● 良書紹介：「悪魔の手紙」by C.S. ルイス

- ・戦いは悪霊に対してである。
- ・何か争いが起きそうな状況になったら、敵とその策略を見抜こう。そして、主の御名によって悪霊に対して戦え。

※となりの人の手を見せてもらえ。それが血と肉。となりの人の手を見ながら宣言しよう。

「私は血肉と争いません。私は人と争いません。

私は人を愛します。愛は決して絶えることはありません。

私は人のした悪を思わず、人を赦します。



私は自分に関する限り、すべての人と平和を保ちます。
 私は自分で復讐はしません。私は血肉と争いません。
 なぜなら、私たちの格闘は悪霊に対するものであるからです。
 私たちは神のすべての武具をとり、あらゆる悪霊に勝利します。」

② 「**私たちの格闘**」

クリスチャンは一人で戦っているのではなく、他のクリスチャンと共に戦っている。戦友を励ましなが、共に立って戦おう。

③ 私たちは、主にあつてすべての悪霊より高いところに置かれている。

・悪霊をあなどってはいけない。→「御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて相手をのしり、さばくようなことはせず、「主があなたを戒めてくださるように。」と言いました。」 ユダ 9

しかし私たちは、キリストにある立場のゆえに、悪霊の上に置かれている。→ 2:6 「天の所」 下記の表を参照。

● **クリスチャンの霊的立場**

コロサイ1:16	エペソ3:10	エペソ6:12	
王座			最高の位(黙 4:2,10 ヘブル 1:8) 信者はここに主と共に座している
主権			サタンはこの位からと思われる エペソ 1:21
支配	支配	支配	Gr. Arche 「高い位の霊的存在」 Zodiates
権威(力)	権威(力)	権威(力)	Gr. Exousia 「力を備えている者」 Zodiates
		暗闇の世界の支配者たち	Gr. Kosmokrator 「この世の支配者であるサタンの配下にある存在」 Z.
		悪霊	マルコ 16:17

■6:13-18 —主にある兵士の任務— 「神のすべての武具を取る」

・V11 に続いて、繰り返される命令。

V13 「**邪悪な日**」だから

・「邪悪な日」の解釈に関しては種々の見解がある：「さばきの日」、「悪魔が活躍する“再臨直前”」、「死の日」、「激しい試練と緊迫の時」、「毎日」など。しかし、パウロの時代もすでに「悪い時代」(5:16)だった。それゆえ、再臨直前はもちろんのこと、すでに毎日が「邪悪な日」である。だから、しっかり対抗できるように、神のすべての武具をとりなさい、とパウロは励ましている。ローマ 13:12 でも「光の武具」を着けるように奨めている。

・「いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように」

「備えあれば、憂いなし」日々、神の武具をつけよう。前述したように、イエス様と親しく歩むことによって、これらのものが備わる。しかし、同時に意識的に神の武具を身に着けるべきである。

● 「**神のすべての武具**」

※写真はエペソの遺跡で発見されたローマ兵のレリーフ

・当時の習慣で、囚人の手首の鎖でローマ兵につなげた。もしかしたら、パウロはエペソ人への手紙を書いた時にそのような状態で書いたかもしれない。



1. 真理の帯

- ・基本的な武具。ガウンのような服を着ていた当時の人々の服を引き締める。
- ・重装備をする前に、服を引き締め、(服がヒラヒラしないように)敏速な行動を可能にする。

真理

- ① イエス様が真理。ヨハ 14:6 メシヤとしてのイエス様も真実を帯としてつけている(イザ 11:5)
イエス様を着る。ローマ 13:14 「主イエス・キリストを着なさい。」
「イエス様は私の真理」と宣言しよう。イエス様が私たちの防御となり、衣のように取巻いて、守ってください。
 - ② みことばが真理 「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。」ヨハネ 17:17
・真理は私たちが「教えの風」4:14 から守る。
・霊の戦いにおける真理は、教理よりも、個人的真実さが大切。みことばの真理を実践する事の重要性。
- エペソに出てくる「真理」
- (1) 1:3 「真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音」福音が 100%真理であることを感謝。
偽りの例 進化論、ヒューマニズム(人間中心主義) サタンは真理を混入した偽りを用いる。
 - (2) 4:21 「真理はイエスにあるのですから」生きた真理の教科書はイエス様。真理をどのように生きるかの模範はイエス様である。
 - (3) 4:25 真理を語り、真実に生きることが、真理の帯を締めること。正直に生きる。
 - (4) 5:9 「光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです」光の中を歩もう！ 偽りを捨てて、真理に忠実に歩もう。
「あなたは心のうちの真実を喜ばれます。それゆえ、私の心の奥に知恵を教えてください。」詩篇 51:6
- ・第一の武具は、いわゆる腕力武力を使うものでなく、品性に関わるものであることは意義深い。

2. 正義の胸当て

- ・胸当ては、兵士の前だけではなく、後ろもおおった。
 - ・正義の胸当ては心(臓)を守る。クリスチャンの心は主イエス・キリストに焦点があっていなければならない。
箴言 4:23 「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」
LB 「心は生活全体に影響を与える」ローマ 10:10 「人は心に信じて義と認められる。」
 - ・「正義」とは、信仰によって与えられる神の義(Ⅱコリ 5:21)であると同時に、それを得た者にふさわしい正しい態度のこともある。Ⅰテサロニケ 5:8 「信仰と愛を胸当てとして着けなさい」
 - ・サタンは、罪責や罪に定めようとして、私たちに攻撃する。それに対して、ローマ 8:1, 33, 34 に基づいて、「イエス・キリストによって私は義とされている！ 私は罪のない者、神に受け入れている者とされている！」と宣言し、心を守る必要がある。
- 「正義」は私たちの日々の生活でどういう意味をもつのか
- ① 主は即座に義をくださる。罪人であることを認めて、告白し、悔い改めたら主はすぐに私たちに義としてくださる。信仰によって義をいただくのをのばさないようにしよう。
 - ② 義とされてから罪を犯し、義の衣がよじれたら、ただちにその罪を告白しよう。つつみ隠さず。そうすれば私たちの正義である主は、すぐにその罪を赦し、忘れ去る。これからは積極的に「義の道」を選んでそれを歩もう。「～今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖清に進みなさい。」ローマ 6:19 毎日、「主は私の正義です！」と信仰の宣言をしよう。
- 例** 私が告白し、赦された過去の罪をサタンが思い起こさせる時はこう宣言している：
「私の罪はイエスの血の下にある！」
- ・私が着ける「正義の胸当て」は、私自身の義ではない。主の義だ！
- ③ やがて、義が完成される。天国で。栄化。実際に罪が全くなくなる。

3. 平和の福音の備え

・くつ: くるぶしからすねにまでしっかりとひもで結び、長距離歩き、しっかり立つことを可能にした。これは、福音を宣べ伝えるに出動できる準備を表す。

例 軍隊では、くつを脱がないで寝ることがある。足ごしらえの機動性。クリスチャンも福音を伝える準備をしていなければならない。

① 「平和の福音」

・私たちもは平和の人でなければならない。未信者に伝道する時、私たちの心 (spirit) が伝わる。

② 「備え」: みことばから福音の (基本) 真理を知っておくこと。神、罪、救い (イエス・キリスト)、信仰など。

自分の信仰 (希望) を伝達する準備 (I ペテロ 3:15, 16) をしておく。

● 「足」に関するみことばの約束

・ダビデ 「神は私たちを、いのちのうちに保ち、私たちの足をよろけさせない。」 Ps 66:8, 9

・ハンナ 「主は聖徒達の足を守られます。」 I サム 2:9

例 1990 年のフィリピンアウトリーチの時、メンバーが文字通り足を狙われた。それに対して祈る必要があった。

・ダビデ 「主はわたしの足を雌鹿の足のようにし [試練と困難のある危険な高い所に固く立ち、前進できるようにしてください]; そして、主は私を高い所でも安全に行かせてくださる。」 詳訳聖書 詩篇 18:33

4. 信仰の大盾

・「大盾」 Gr. スコレオス。元々「とびら」の意。横 75cm×縦 120~125cm。全身をおおうほどの大きさ。槍兵が用いた。大盾は、二枚の板を張り合わせ、皮でおおわれていた。 ※もう一種類の盾は、直径 90cm の円型。

・「火矢」 長さ 1m 余りで、先に鉄のやじりが付いていた。鎧姿の兵士をも貫通するほどのもの。先に麻が巻かれ、火が燃えている。突き通し、かつ火をつける。ゆえに、多くの場合、戦いの前に兵士は盾を水につけた。

・「信仰」とは、主が守り、導いてくださるという信頼。信仰は主との信頼関係。信仰は、クリスチャン生活の全領域を守る。 II ペテロ 1:3 LB 「キリスト様を知れば知るほど、その偉大な力を通して、神様に従う正しい生活を送るために必要なすべてのものがいただけるのです。」

・自分の生活に必要な領域 (健康、恐れ、経済、家庭、睡眠、守り、その他もろもろ) に関するみことばを調べ、それに基づいて信じて祈る。 例 恐れ: イザヤ 41:10 経済: ピリピ 4:19 睡眠: 詩篇 127:2

※ローマ兵は多くの場合、戦いに備えて盾を水に浸した。私たちも、自分の信仰をみことばという水に浸そう。

→ 「信仰は聞くことから始まり…」 ローマ 10:17

・サタンは、疑いや不信仰を使って攻撃する。私たちはそれに対して、主と主のみことばに頼る信仰によって自分達を守る。 例 ローマ帝国に反逆する者達がある夜、ローマ兵のキャンプを攻撃し、火の矢を放った。そして、なんとかしてキャンプの中に火事をおこそうとした。馬の干し草のような物が燃え、火事が起こった。ローマの兵隊は、干し草に火の矢が刺さったとき、盾でその火をたたき消したと言われている。4:27 では、「悪魔に機会を与えないようにしなさい」とある。悪魔は私たちの心に足場があるならば、火事を起こす。すなわち疑いの火を燃やすのだ。それゆえ、信仰の大盾でサタンの火矢を消さなければならない。サタンが私たちに疑いの種、疑いの火矢を投げ込んだら、すぐに信仰を持って消さなければならない。悪魔に耳を傾けてはならないのだ。

● 旧約聖書では、盾は神の保護の美しい象徴。

● 創世記 15:1 「アブラハムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である」 ● 申命記 33:29 「しあわせなイスラエルよ。…主はあなたを助ける盾」 ● 詩篇 3:3 「主よ。あなたはわたしの回りを囲む盾」 ● 詩篇 5:12 「主よ。まことにあなたは正しい者を祝福し、大盾で囲むように愛で彼を囲まれます」 ● 詩篇 91:4 「主はご自分の羽で、あなたをおおわれる。あなたは、その翼の下に身を避ける。主の真実は、大盾であり、とりでである。」 ● 箴言 30:5 「神のことばは、すべて純粹。神は投げ頼む者の盾。」

5. 救いのかぶと

- ・「かぶと」は固い青銅か鉄の合金できていた。斧のようなものでないと貫通できないほど強かった。
- ・この武具は、「頭」(思考生活)を守る事を教える。クリスチャン生活全域は:「ヘルメット着用区域」だ。
- I テサ 5:8 「救いの望みをかぶととしてかぶって」
- ・「救い」
主の完全な救い(ヘブ 7:25)を信じることの大切さ。主の救いは、過去の罪の赦しだけでなく、現在、未来の罪に対する救い(勝利)も与える。
- ・「望み」 聖書の希望は、「なればいいなあ」的な希望的観測ではなく、未来の良いことに対する確固たる期待だ。「とにかく主は良いお方。必ず良い事を起こしてくださる。」という希望。
- ・救い・解決・勝利は主から来る！ 詩篇 62:1-8 ヨナ 2:9 「救いは主のものです！」
- ・サタンは、憂鬱、絶望、落ち込み、などをもって攻撃する。しかし、主に希望を置くことによって勝利できる。

6. 御霊の与える剣である神のことば

- ・この「剣」は、防御兼攻撃用。30-35cm。先がとがっていて、どの方向にも鋭く切る事ができた。主に個人戦用。
- ・霊の戦いにおいては、「告白」、「宣言」が大事。戦う時、「口」が用いられることに注意。「頭の中で思うだけで悪魔を去らせることは出来ない。」
- ・「御霊の剣を振り回す唯一の方法はそれを語ることです」
- ・イエス様が霊の戦いにおいて、「告白」、「宣言」を用いた例: マタ 4:1~11 「〜と書いてある」と、みことばを引用して悪魔に対抗した。黙示録に描かれているイエス様:「口からは鋭い両刃の剣がでており」1:16, 19:15。
「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」ヘブル 4:12
- ・パウロの例 使徒 13:8-12 主が示したことば(Gr. レーマ=「語られたことば」)を語った。
- 例** 私は 20 才の頃、サタンから毎日のように来る救いの疑いに対して、ローマ 10:9, 10 を信じて、宣言した。その結果その疑いの攻撃はもう来なくなった。

7. 祈り

- ・「この武器は地上的・物質的には比類のないものである。」B. コーリー。最高の武器。「祈りはミサイルだ！」
- ・祈りは、司令官(主イエス様)との連絡。当時は電話も無線もない。しかし、すべては司令官の命令で動く。馬に乗って連絡。今は電話、無線などがある。しかし、祈りはもっと速く、確実に司令官に届く。祈りによってイエス様と連絡をとり、指令を受けて行動することができる。
- ・「どんなときにも」いつでもどこでも祈れることは何というすばらしい特権だろう！ → 歯医者さんのイスの上で、車の中で(急ブレーキで「主よ！」)、誘惑を受けた時に、ネヘミヤのように、聞かれた質問に答える前の「電報祈り」(ネヘミヤ 2:4, 5)、大勢での一勢の祈り、涙と涙の間の祈り、真剣なとりなしの祈りなど。
- ・「すべての祈り」を用いて祈るべき。
聖書にある祈りには様々ある。・願う祈り(マタ 7)・信仰の祈り(マタ 21:22, マコ 11:24)・献身の祈り(ルカ 22:42)・ゆだねる祈り(I ペテ 5:9)・礼拝の祈り(使 13:1, 2, ルカ 24:52, 53)・同意の祈り(マタ 18:19,20)・霊(異言)による祈りと知性による祈り(I コリント 14:14, 15)・とりなしの祈り(ヘブ 7:25)・全員で心をつ一つにして祈る祈り(使徒 4:23-31)
- ・「御霊によって祈りなさい」
聖霊様は、① 何を祈るべきかを教え、② 祈る力をくださる。聖霊様と「ともに祈る」意識を持つ(ローマ 8:26,27)。重たいテーブルを 1 人で持つのは大変だが、2 人で両端を持つならできる。祈りという重労働を聖霊様と共にす

る。

・「そのためには絶えず目をさましている」必要がある。霊的に目をさまして、注意深くしている必要。

「誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい」 マルコ 14:38

例 父親の救いのためのとりなしの祈り

バリーは父の救いを願っていた。しかし福音を語ると父は怒る。どのように祈ったらよいか主に求めた。そうしたら父の怒りは習慣的パターンであることに気付いた。その習慣の背後に、お父さんを束縛している霊的存在がある事を知った。それは父親の目をくらましている悪霊。それゆえ「怒りの霊」に対して祈った。さらに、父のアルコールの問題に対しても同じように祈った。数年に渡って、この特定の敵の要塞に対して祈った。そんなある日父から電話があった。誰かが家のドアをノックして福音を語ってくれた。父はイエス様を受け入れた！ 祈りは敵を征服する！

・祈りとは、すべての人に注がれている神の愛と力を特定の人に集中させるもの。太陽光線を集める虫めがねのように。

「私のためにも祈ってください」 6:19、20

■6:19、20 救いのための祈り

・聖書は、救われていない家族や友人の救いのためにどのように祈るべきと教えているか。

① イエス様は一度も直接的に人の永遠の救いのために祈らなかったし、そう祈るように命令しなかった。

「迫害する者のために祈りなさい」とは言った。そして迫害者の最善は救われること。

② パウロも直接救いのために祈りなさいと命令はしていない。

I テモテ 2:1-4 で、すべての人のために、特に国の指導者のために、祈りなさいとは言った。

● 一つははっきりしていること: V4 「神はすべての人が救われて真理を知るようになるのを望んでいる！」

これが主のみこころ。「あの人は救われっこない」と考えてはダメ！

・II ペテロ 3:9 も忘れないようにしよう。「主は、ある人たちが遅いと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が、悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」

③ 新約聖書の中で最もはっきりした、未信者の救いのための祈りは、ローマ 10:1。これは、パウロの心の叫び。しかし、これも個人のための祈りではなく、国家としてのイスラエルの救いのための祈り。

なぜ未信者のための祈りのみことばはこれひとつだけなのか？ イエス様やパウロは伝道はどうでもいいと思っていたのか。もちろん違う。イエス様は、救われていない、エルサレムのために涙を流した。パウロほどの伝道熱心な人はいなかった。

● では、新約聖書では、伝道や人の救いに関して、どう祈るようか教えているのか。

1. イエス様の教え

・「収穫」(人の救い、御国に入れられる。天国に国籍を持つ者とされること)があるのだから、「収穫の主は、収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」(マタ 9:28)と教えた。収穫(人の救い)のためにではなく、収穫のための働き手(収穫者、刈り取りをする人)のために祈りなさいと教えた。

2. パウロの教え

・もし、あなたが刑務所に入れられて、周りにイエス様の救いを必要とする人がたくさんいるのを見たら、自分の教会にどういう手紙を書くだらうか？ 多分、その人たちの名前をあげて、「～さんのかたくなな心が砕かれて、開かれて、救われるように」と書かないだらうか？ 私だったらそう思う。しかし、パウロは違った。エペソ 6:19、20 で「私のために祈ってください」と言った。救われていない人のための祈りよりは、聖徒のための祈りをすすめる。自分の証しが効果的であるように祈って下さいと書いた。

① あかしをするチャンス(機会)のために、祈ってください

・「神がみことばのために門を開いてくださるよう祈ってください」 コロサイ 4:3

LB「キリスト様の良い知らせを伝える機会が多く与えられるように、祈って欲しいのです。」

・あかしする機会をもたらす(門を開く)のは神様：黙示録 3:7。人間的にむりやり門を開くのは効果的ではない。

② あかしをする者に勇気(大胆さ)が与えられるように、祈ってください。

・これが、エペソ 16:19 と 20 の祈り。「私が口を開くとき～福音の奥義を大胆に知らせることができるように」。パウロはこの事を二回お願いしている。恐れがあると、自由に語るべきことを語れなくなる。福音のメッセージがボケてしまう。だから、恐れなく、大胆に勇気をもって語れるようにパウロはとりなしの祈りを求める。

③ 福音を語るときに、適切なことばが与えられるように、祈ってください。

これも、6:19「語るべきことばが与えられますように」と 6:20「語るべきことを～語れるように」と二回お願いしている。コロサイ 4:4「また、私がこの奥義を、当然語るべき語り方で、はっきり語れるように祈ってください」

LB「自由に、完全に、しかもわかりやすく～語れるように祈ってください」

これは、人間の力ではできない。だからこそ、神に祈る必要がある。パウロもこのための祈りの必要を感じていたから、わざわざエペソとコロサイの教会に祈りを要請した。

・ある人のことば：「本当の伝道は、神について人に話すことで始まるのではなく、人のことを神に話すことから始まるのです。」

● 未信者の救いのための効果的な祈り

① もし、その人がクリスチャンと全くコンタクトがなかったならば、クリスチャンと知り合えるように、かかわりが与えられるように祈る。神様が未信者に直接的に啓示を与えるのは例外的。そういう場合もあるが、ほとんどは、すでにクリスチャンになっている人との接触から始まっている。

② もし、その人がすでにクリスチャンと接触しているならば(例えば同じ職場で働いているとか、隣近所に住んでいるとか)、そのクリスチャンが整えられるように祈る。

③ もし、まだ救われていない家族と一緒に住んでいるのなら、何人かのクリスチャンに、あなたのために、パウロが願ったのと同じとりなしの祈りをさせていただくのがいい。

・19 節をそのまま祈る。

・V20 私は「鎖につながれて」：囚人を見張っていた兵隊は 6 時間おきに交代していた。あなたもある人と良い意味で「鎖につながれている」と言える。夫婦、職場の同僚、隣近所の人。

・「福音のために大使の役を果たしています」

パウロは「鎖」のことを嘆かずに、積極的にとらえ、福音のために用いた。私たちもみな、「神の国の大使」である。

V20 の祈りをそのまま祈ってもらう。

※イエス様も、パウロも聖徒(クリスチャン)のための祈りに力を入れた。聖徒が整えられ、備えられれば、おのずから伝道は行われていく。「すべての聖徒のために…また私のために祈ってください」と実践しよう。

朽ちぬ愛 6:21, 22

■6:21, 22 「テキコ」

① 名前

おそらく、運命の神「テューケー」から取られた名前。他にユテコやストケがある。新約聖書中異教の神々の名からつけられた名前はたくさんある。元は他の神々を信じていた家庭に生まれ育った人々が、真の生ける神への信仰に至ったという証し。 ※自分の名前の異教的な起源にこだわらないで、今はキリストのものとなったという証しを大切にしてください。

② パウロの同労者

「私の様子については、**主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべであるテキコ**が、あなたがたに一部始終を知らせるでしょう。私がテキコをあなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって心に励ましを受けるためにほかなりません。」コロサイ 4:7,8 クリスチャン同労者の美しい描写！

- ・パウロの同労者は、パウロの働きが進展していった秘訣のひとつ。パウロの周りには、いつも数名の忠実な同労者がいた。主の働きが進展していくために、今も「忠実な奉仕者」が必要とされている
 - ・ステファニー・ウイルズという名前を聞いたことあるか？ 彼女は、ビリー・グラハムの秘書。アーマ・グリスウオールドという名前を聞いたことあるか？ 彼女はキャンパス・クルセード創設者、ビル・ブライトの秘書。ベンジャミン・ブルームホールは？ 英国でハドソン・テラーのために献金を集めたり、テラーの有名な機関誌「China's Millions」の編集をした。 私たちもこの人たちのように忠実な奉仕者となろう。
 - テキコは「最後まで」忠実だった。パウロの最後の書簡Ⅱテモテで：「私はテキコをエペソへ遣わしました」4:12
- V22 「あなたがたが私たちの様子を知り」
- ・ある人の様子を伝えることの大切さ。例えば、病床の人。
 - ① それがその人にとって外の人々との唯一のコミュニケーションかもしれない。「覚えられていること」は本当にうれしいこと。
 - ② 正しく、効果的に祈るために必要。→ あなたも誰かのテキコになって下さい。

■6:23, 24 祈禱

- ・この祈禱の中に、エペソ書の鍵となることばが入っている：平安(7回)、愛(19回)、信仰(8回)、恵み(13回)
- ・エペソ書の「恵み」をもう一度思い返そう。ここで使われている「恵み」のギリシャ語には冠詞が付いている。つまり「私がこれまで語ってきた恵みがありますように！」ということ。
- ・これだけ恵みを受けている私たちなのだから、朽ちぬ愛をもって主イエス・キリストを愛して行こう！
「愛は決して耐えることはありません」(Ⅰコリント 13:8)という愛を心に注がれているのだから、いつまでも主を愛することができる。
- 恵みの祈禱(1:2)で始まり、恵みの祈禱で終わるエペソ人への手紙。